

平成19年9月4日

薬事・食品衛生審議会
食品衛生分科会長 吉倉 廣 殿

薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会
農薬・動物用医薬品部会長 大野 泰雄

薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会
農薬・動物用医薬品部会報告について

平成19年4月11日厚生労働省発食安第0411003号をもって諮問された、食品衛生法（昭和22年法律第233号）第11条第1項の規定に基づくジノテフランに係る食品規格（食品中の農薬及び動物用医薬品の残留基準）の設定について、当部会で審議を行った結果を別添のとおり取りまとめたので、これを報告する。

(別添)

ジノテフラン

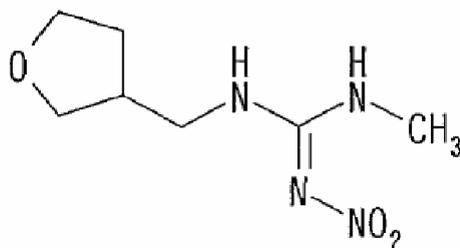
1. 品目名：ジノテフラン (dinotefuran)

2. 用途：殺虫剤

テトラヒドロフリルメチル基を有するネオニコチノイド系殺虫剤である。作用機序は、主にニコチン性アセチルコリン受容体アゴニスト作用によるものと考えられる。

3. 化学名：(R S) -1-メチル-2-ニトロ-3-(テトラヒドロ-3-フリルメチル)グアニジン

4. 構造式及び物性



分子式	C ₇ H ₁₄ N ₄ O ₃
分子量	202.21
水溶解度	40 g/L (20°C)
分配係数	logPow = -0.549 (25°C)

(メーカー提出資料より)

5. 適用病害虫の範囲及び使用方法

(1) 農薬

本薬の適用病害虫の範囲及び使用方法は以下のとおり。

なお、**作物名**、**使用方法**のように記載しているものについては、今回農薬取締法（昭和23年法律第82号）に基づく適用拡大申請がなされたものを示している。

0.35%粉剤

作物名	適用害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数
稲	ウンカ類 ツマグロヨコバイ	3kg/10a	収穫7日前 まで	3回以内	散布	4回以内 (本田期は 3回以内)
	カメムシ類	3~4kg/10a				

0.5%粉剤

作物名	適用害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数
稲	ウンカ類 ツマグロヨコバイ カメムシ類 イナゴ類 イネドロオイムシ ニカメイチュウ フタオビコヤガ	3kg/10a	収穫7日前 まで	3回以内	散布	4回以内 (育苗箱への 処理及び側 条施用は合 計1回以内、 本田での散 布、空中散 布、無人ヘリ 散布は合計 3回以内)

10%液剤

作物名	適用害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数
稲	ツマグロヨコバイ	1000 倍	60～ 150L/10a	収穫 7 日前 まで	3 回以内	散布	4 回以内 (育苗箱への 処理及び側 条施用は合 計 1 回以内、 本田での散 布、空中散 布、無人ヘリ 散布は合計 3 回以内)
	カメムシ類 ウンカ類	300 倍	25L/10a				
		8 倍	0.8L/10a			無人ヘリ コプター による散 布	
		30 倍	3L/10a			空中散布	

4%水和剤

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数	プロベナゾールを含む農薬の総使用回数
稲	いもち病 イネミズゾウムシ イネドロオウムシ ウンカ類	500g/10a	移植時	1 回	ペースト肥 料に混合し 側条施肥田 植機で施用 する	4 回以内 (育苗箱への 処理及び側 条施用は合計 1 回以内、本田 での散布、空 中散布、無人 ヘリ散布は合 計 3 回以内)	2 回以内 (育苗箱への 処理及び側 条施用は合 計 1 回以 内)

10%水和剤

作物名	適用病害虫名	希釈倍率	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数	トリシクラゾールを含む農薬の総使用回数
稲	いもち病 ウンカ類 ツマグロヨコバイ カメムシ類	1000 倍	60～ 150L/ 10a	収穫 7 日前 まで	3 回以内	散布	4 回以内 (育苗箱への 処理及び側条 施用は合計 1 回以内、本田 での散布、空 中散布、無人 ヘリコプター 散布は合計 3 回以内)	4 回以内 (育苗箱への 処理は 1 回以内、本田 では 3 回 以内)
	いもち病 カメムシ類	8 倍	0.8L/ 10a	収穫 7 日前 まで		無人ヘリコ プター散布		

10%水和剤(カスラブスタークルフロアブル)

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用 液量	使用 時期	使用 回数	使用 方法	ジノテフランを 含む農薬の総 使用回数	カスガマイシンを 含む農薬の総 使用回数	フサライドを 含む農薬の 総使用回数
稲	いもち病 カメムシ類	300 倍	25L/ 10a	収穫 14 日 前ま で	3 回 以内	散布	4 回以内 (育苗箱への 処理及び側条 施用は合計 1 回以内、本田 での散布、空 中散布、無人 ヘリコプター 散布は合計 3 回以内)	5 回以内(種 子浸漬は1回 以内、育苗箱 への処理は 1 回以内)	6 回以内 (穂ばらみ 期以降は 4 回以内)

5%水和剤

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用 液量	使用 時期	使用回数	使用方法	ジノテフランを含 む農薬の総使 用回数	フサライドを 含む農薬の 総使用回数
稲	いもち病 カメムシ類	150 倍	25L/ 10a	収穫 7 日前 まで	3 回以内	散布	4 回以内 (育苗箱への処 理及び側条施 用は合計 1 回以 内、本田での散 布、空中散布、 無人ヘリ散布は 合計 3 回以内)	6 回以内 (穂ばらみ 期以降は 4 回以内)

1%粒剤(スタークル粒剤)

作物名	適用害虫名	使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	ジノテフランを 含む農薬の総 使用回数
稲	ウンカ類 ツマグロヨコバイ ニカメイチュウ イネドロオイムシ カメムシ類	3kg/10a	収穫 7 日前 まで	3 回以内	散布	4 回以内 (育苗箱への 処理及び側条 施用は合計 1 回以内、本田 での散布、空 中散布、無人 ヘリ散布は合 計 3 回以内)
きゅうり	トマトハモグリバエ	2g/株	育苗期	1 回	株元散布	4 回以内 (育苗期の株 元散布及び定 植時の土壌混 和は合計 1 回 以内、定植後 の株元散布は 1 回以内、散 布は 2 回以内)
	アブラムシ類	1g/株				
	アブラムシ類 コナジラミ類	1g/株	生育期 但し、収穫 14 日前まで			
	アブラムシ類 コナジラミ類	1~2g/株	定植時			
	ミナキイロアザミウマ トマトハモグリバエ	2g/株				

1%粒剤(スタークル粒剤) (続き)

作物名	適用害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数	
すいか	ワタアブラムシ	2g/株	育苗期		株元散布	4回以内 (育苗期の株元散布及び定植時の土壌混和は合計1回以内、定植後の株元散布は1回以内、散布は2回以内)	
			定植時		植穴 土壌混和		
			生育期 但し、収穫21日前まで		株元散布		
うり類 (漬物用)	ミナキイロアザミウマ	1~2g/株	定植時		植穴 土壌混和	3回以内 (定植時の土壌混和は1回以内、散布は2回以内)	
	アブラムシ類 コナジラミ類						
メロン	アブラムシ類 コナジラミ類	1g/株	定植時	1回	植穴 土壌混和	3回以内 (育苗期の株元散布及び定植時の土壌混和は合計1回以内、散布は2回以内)	
	ミナキイロアザミウマ ハモグリバエ類	2g/株					
	トマトハモグリバエ	1g/株	育苗期		株元散布		
	アブラムシ類						
なす	アブラムシ類	1g/株	育苗期	2回以内	株元散布	3回以内 (育苗期の株元散布及び定植時の土壌混和は合計1回以内、散布及び定植後の株元散布は合計2回以内)	
	トマトハモグリバエ	2g/株					
		1~2g/株	定植時		植穴 土壌混和		
	アブラムシ類 コナジラミ類	1g/株	収穫前日まで		株元散布		
	ミナキイロアザミウマ	1~2g/株	定植時		1回		植穴 土壌混和
	ハモグリバエ類	2g/株					

1%粒剤(スタークル粒剤) (続き)

作物名	適用害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数
トマト ミニトマト	トマトハモグリバエ	1～2g/株	育苗期	1回	株元散布	5回以内 (育苗期の株元散布は1回以内、定植時の灌漑は1回以内、定植時の土壌混和は1回以内、散布は2回以内)
	コナジラミ類	1g/株				
	アブラムシ類		定植時			
	ハモグリバエ類	1～2g/株				
ピーマン	ミナミキイロアザミウマ	1～2g/株	育苗期	2回以内	株元散布	3回以内 (育苗期の株元散布及び定植時の土壌混和は合計1回以内、散布及び定植後の株元散布は合計2回以内)
	アブラムシ類	1g/株				
			株元散布			
キャベツ	アオムシ	2～3g/株	定植時	1回	植穴 土壌混和	3回以内 (定植時の土壌混和及び灌漑は合計1回以内、散布は2回以内)
	アブラムシ類	2g/株				
	コナガ	2～3g/株				
はくさい	アオムシ	3g/株				
	アブラムシ類	2g/株				
ブロッコリー			コナガ			

1%粒剤(スタークル粒剤) (続き)

作物名	適用害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数
ねぎ	ネギアザミウマ ネギハモグリハエ	6kg/10a	定植時	1回	株元散布	4回以内 (育苗トレイへの灌注及び定植時の株元散布は合計1回以内、生育期の株元灌注は1回以内、散布は2回以内)
だいこん	キスジノミハムシ	4~6kg/10a	は種時		播溝 土壌混和	3回以内 (は種時の土壌混和は1回以内、散布は2回以内)
	アブラムシ類	6kg/10a			土壌混和	3回以内 (は種時及び定植時の土壌混和は合計1回以内、散布は2回以内)
チンゲンサイ	キスジノミハムシ	6kg/10a	定植時		土壌混和	3回以内 (は種時及び定植時の土壌混和は合計1回以内、散布は2回以内)
	アブラムシ類		は種時			
こまつな みずな	アブラムシ類 キスジノミハムシ		は種時		播溝 土壌混和	1回
非結球あぶ らな科野菜 (チンゲンサイ、こまつな、みずなを除く)						
なばな類	アブラムシ類		0.5~1g/株		定植時	植穴 土壌混和
いちご	ワタアブラムシ					

1%粒剤(スタークル粒剤) (続き)

作物名	適用害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数
かんきつ (苗木)	ミカンハモグリガ	20g/株	育苗期	5回以内	株元散布	5回以内
くわい	アブラムシ類	3kg/10a	収穫 60 日前 まで	3回以内	散布	3回以内
かぶ	キスジノミハムシ	6kg/10a	は種時	1回	播溝 土壌混和	3回以内 (は種時の播 溝土壌混和は 1回以内、散 布は2回以内)
こんじん	マメハモグリバエ	9kg/10a	は種時	1回	播溝 土壌混和	1回
茶	クワシロカイガラムシ	12kg/10a	摘採 7 日前 まで	2回以内	株元 土壌混和	2回以内
ししとう	アブラムシ類	1g/株	育苗期	1回	株元散布	3回以内 (育苗期の株 元散布及び定 植時の土壌混 和は合計 1回 以内、散布は2 回以内)
	ミナキイロアサミウマ	1~2g/株	定植時		植穴 土壌混和	
とうがらし類	ミナキイロアサミウマ	1~2g/株	定植時	1回	植穴 土壌混和	4回以内 (育苗期の株 元散布及び定 植時の土壌混 和は合計 1回 以内、定植後 の株元散布は 1回以内、散 布は2回以内)
	アブラムシ類	1g/株	育苗期		株元散布	
			生育期 但し、収穫 14 日前まで			
さやえんどう	ハモグリバエ類	9kg/10a	生育期 但し、収穫 14 日前まで			3回以内 (株元散布は 1 回以内、散布 は 2回以内)

1%粒剤(スタークル粒剤) (続き)

作物名	適用害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数
食用ぎく	アブラムシ類	1g/株 (但し、 10a 当たり 30kg ま で)	定植時	1 回	植穴 土壌混和	3 回以内 (定植時の土 壌混和は 1 回 以内、散布は 2 回以内)
	マメハモグリハエ	2g/株 (但し、 10a 当たり 30kg ま で)				

2%粒剤(スタークル箱粒剤)

作物名	適用害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数
稲	ウンカ類 ツマグロヨコバイ イネミズゾウムシ イネドロオイムシ	育苗箱 (30x60x 3cm、 使用土壌 約 5L) 1箱当たり 50g	は種前	1 回	育苗箱の 床土又は 覆土に均 一に混和 する。	4 回以内 (育苗箱への 処理及び側条 施用は合計 1 回以内、本田 での散布、空 中散布、無人 へり散布は合 計 3 回以内)
			は種時覆土前 ～移植当日		育苗箱の 上から均 一に散布 する。	
	移植 3 日前～ 移植当日					
	ニカメイチュウ フタオビコヤガ		移植当日			
	イネクロカメムシ		移植当日			

3%粒剤(スタークル1キロH粒剤)

作物名	適用害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数
稲	ウンカ類 ツマグロヨコバイ	1kg/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	4回以内 (育苗箱への処理及び側条施用は合計1回以内、本田での散布、空中散布、無人ヘリコプターによる散布は合計3回以内)
	無人ヘリコプターによる散布					

20%水溶剤 (スタークル顆粒水溶剤)

作物名	適用病虫害名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数
稲	カメムシ類	2000倍	60~150L /10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	4回以内 (育苗箱への処理及び側条施用は合計1回以内、本田での散布、空中散布、無人ヘリコプターによる散布は合計3回以内)
	ウンカ類 ツマグロヨコバイ	3000倍					
ピーマン	アブラムシ類	2000倍	100~ 300L/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	3回以内 (育苗期の株元散布及び定植時の土壌混和は合計1回以内、散布及び定植後の株元散布は合計2回以内)
	ミナミキイロアザミウマ						

20%水溶剤（スタークル顆粒水溶剤）

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数
トマト ミニトマト	コナジラミ類	100 倍	セル成型 育苗トレイ (30x59cm・ 使用土壌約 1.5~4.0L) 1 箱当り 0.5L	定植時	1 回	灌注	5 回以内 (育苗期の株 元散布は 1 回 以内、定植時 の灌注は 1 回 以内、定植時 の土壌混和は 1 回以内、散 布は 2 回以内)
		3000 倍					
なす	コナジラミ類 アブラムシ類	2000 倍	100~ 300L/10a	収穫前日ま で	2 回以内	散布	3 回以内 (育苗期の株 元散布及び定 植時の土壌混 和は合計 1 回 以内、散布及 び定植後の株 元散布は合計 2 回以内)
	ミナキイロアザミウマ						
きゅうり	アブラムシ類 コナジラミ類	2000~ 3000 倍	100~ 300L/10a	収穫前日ま で	2 回以内	散布	4 回以内 (育苗期の株 元散布及び定 植時の土壌混 和は合計 1 回 以内、定植後 の株元散布は 1 回以内、散 布は 2 回以内)
	アザミウマ類	2000 倍					
すいか	アブラムシ類	2000~ 3000 倍	100~ 300L/10a	収穫 7 日前 まで	2 回以内	散布	4 回以内 (育苗期の株 元散布及び定 植時の土壌混 和は合計 1 回 以内、定植後 の株元散布は 1 回以内、散 布は 2 回以内)
うり類 (漬物用)	コナジラミ類 ミナキイロアザミウマ	2000 倍	100~ 300L/10a	収穫 7 日前 まで	2 回以内	散布	3 回以内 (定植時の土 壌混和は 1 回 以内、散布は 2 回以内)
	アブラムシ類	2000~ 3000 倍					

20%水溶剤（スタークル顆粒水溶剤）（続き）

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数	
ブロッコリー	アブラムシ類	2000～3000倍	100～300L/10a	収穫3日前まで	2回以内	散布	3回以内 (定植時の土壌混和及び灌注は合計1回以内、散布は2回以内)	
はくさい								
キャベツ	アブラムシ類 コナガ アオムシ	50～100倍	セル成型育苗トレイ (30x59cm・使用土壌約3L) 1箱当たり0.5L	定植時	1回	灌注		
	ハイマダラノメイガ	50倍						
レタス	アブラムシ類 ナモグリバエ	50～100倍	セル成型育苗トレイ (30x59cm・使用土壌約1.5～4.0L) 1箱当たり0.5L	定植時	1回	灌注		
	非結球レタス	アブラムシ類	2000～3000倍	100～300L/10a	収穫3日前まで 収穫21日前まで	2回以内		散布
ねぎ	ネギアザミウマ	2000倍	100～300L/10a	収穫3日前まで	1回	灌注		4回以内 (育苗トレイへの灌注及び定植時の株元散布は合計1回以内、生育期の株元灌注は1回以内、散布は2回以内)
	ネギアザミウマ ネギハモグリバエ	50倍	セル成型育苗トレイ (30x59cm・使用土壌約1.5～4.0L) 1箱当たり0.5L	定植時				
	ネギハモグリバエ	400倍	0.4L/m ²	生育期 但し、収穫14日前まで		株元灌注		

20%水溶剤（スタークル顆粒水溶剤）（続き）

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数
ばれいしょ	ワタアブラムシ	2000 倍	100～300L /10a	収穫 7 日前 まで	2 回以内	散布	2 回以内
りんご	アブラムシ類 キンモンホソガ シンクイムシ類 ギンモンハモグリガ クワコナカイガラムシ カメムシ類	2000 倍	200～700L /10a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	3 回以内
もも	アブラムシ類 モモハモグリガ						
ネクタリン	シンクイムシ類 カメムシ類						
おうとう	オウトウショウジョウバエ カメムシ類				2 回以内		2 回以内
なし	アブラムシ類 シンクイムシ類 カメムシ類 ケムシ類 クワコナカイガラムシ	2000 倍	200～700L /10a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	3 回以内
かき	カメムシ類 フジコナカイガラムシ カキノハタムシガ チャノキイロアザミウマ カキクダアザミウマ						
うめ	アブラムシ類				2 回以内		2 回以内
ぶどう	フタテンヒメヨコバイ	3000 倍	200～700L /10a	収穫 7 日前 まで	2 回以内	散布	2 回以内
	チャノキイロアザミウマ	1000～					
かんきつ	コナカイガラムシ類	2000 倍					

20%水溶剤（スタークル顆粒水溶剤）（続き）

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数
かんきつ	ゴマダラカミキリ	1000 倍	200～700L /10a	収穫 7 日前 まで	2 回以内	散布	2 回以内
	アブラムシ類 ミカンハモグリガ カメムシ類 コアオハナムグリ ケシキスイ類 ミカンバエ アカマルカイガラムシ ヤノネカイガラムシ ミカンキジラミ	2000 倍					
茶	チャノホソガ チャノミドリヒメヨコバイ チャノキロアザミウマ ツマグロアオカスカメ コミカンアブラムシ		200～ 400L/10a	摘採 7 日前 まで			2 回以内
てんさい	テンサイトビハムシ テンサイモグリハナバエ	100～200 倍	5L/ペーパー ポット 6 冊 (2.5L/m ²)	移植前	1 回	散布	1 回
メロン	アブラムシ類	3000 倍	150～ 300L/10a	収穫 3 日前ま で	2 回以内	散布	3 回以内 (育苗期の株元 散布及び定植 時の土壌混和 は合計 1 回以 内、散布は 2 回 以内)
だいこん				収穫 7 日前ま で			3 回以内 (は種時の土壌 混和は 1 回以 内、散布は 2 回 以内)
だいず	カメムシ類	2000 倍					2 回以内
えだまめ							
らっきょう	ネギアザミウマ			収穫前日ま で	3 回以内		3 回以内

20%水溶剤（スタークル顆粒水溶剤）（続き）

作物名	適用害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数		
かぶ	アブラムシ類	3000 倍	150～ 300L/10a	収穫 3 日 前まで	2 回以内	散布	3 回以内(は種時の播溝 土壌混和は 1回以内、 散布は 2 回 以内)		
ししとう	アブラムシ類	3000 倍		ミナミキイロアザミウマ			3000 倍	3 回以内(育苗期の株元 散布及び定 植時の土壌 混和は合計 1 回以内、 散布は 2 回 以内)	
	アブラムシ類	3000 倍						ミナミキイロアザミウマ	2000 倍
とうがらし類	アブラムシ類	3000 倍		ミナミキイロアザミウマ			2000 倍		
	アブラムシ類	3000 倍						ミナミキイロアザミウマ	2000 倍

20%水溶剤（スタークル顆粒水溶剤）（続き）

作物名	適用害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数		
チンゲンサイ	アブラムシ類	3000 倍	100～ 300L/10a	収穫 3 日 前まで	2 回以内	散布	3 回以内(は 種時及び定 植時の土壌 混和は合計 1 回以内、 散布は 2 回 以内)		
しゅんぎく				収穫前日 まで			2 回以内		
ほうれんそう				収穫 3 日 前まで					
さやえんどう		2000 倍		収穫前日 まで			3 回以内(株 元散布は 1 回以内、散 布は 2 回以 内)		
こまつな		3000 倍		収穫 14 日前まで			3 回以内(は 種時の土壌 混和は 1 回 以内、散布 は 2 回以 内)		
みずな									
食用ぎく				収穫 7 日 前まで			3 回以内(定 植時の土壌 混和は 1 回 以内、散布 は 2 回以 内)		
すもも		2000 倍		200～ 700L/10a				2 回以内	
小粒核果類									

20%水溶剤（スタークル顆粒水溶剤）（続き）

作物名	適用害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数
マンゴー	チャノキイロアザミウマ	2000 倍	200～ 700L/10a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	3 回以内
オクラ	アブラムシ類		100～ 300L/10a	収穫前日 まで	2 回以内		2 回以内

50%水溶剤（スタークルエア－50）

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数
稲	カメムシ類 ウンカ類	40 倍	0.8L/10a	収穫 7 日 前まで	3 回以内	無人 ヘリコ プター による 散布 空中 散布	4 回以内(育苗箱への処理及び側条施用は合計 1 回以内、本田での散布、空中散布、無人ヘリ散布は合計 3 回以内)

(2) 動物用医薬品

動物体には直接使用しない。畜・鶏舎内及びその周辺のハエの成虫の発生又は棲息する場所に、畜・鶏舎内外の床面積 100m²に対し、ジノテフランとして 2g を 100～400ml の水に溶かした溶液を壁、柱に塗布する、又は壁、柱等に噴霧塗布する。なお、塗布量の目安は塗布面 1m²当たり溶液 100ml とし、溶液が地面に滴り落ちないようできるだけ均一に塗布又は噴霧塗布を行う。

6. 農薬の作物残留試験結果

(1) 分析の概要

① 分析対象の化合物

ジノテフラン

② 分析法の概要

ジノテフランは、アセトニトリルまたは含水メタノールにより抽出し、ヘキサンで分配洗浄、多孔質けい藻土カラムを用いて酢酸エチルまたはジクロロメタン転溶を行う。その上で、グラファイトカーボン固相抽出カラム等を用いて精製した後、高速液体クロマトグラフィー(紫外分光光度型検出器)を用いて定量する。

検出限界 0.005~0.05ppm。

(2) 作物残留試験結果

今回新たに提出された作物残留試験結果には下線を付している。

① 稲 (玄米)

稲 (玄米) を用いた作物残留試験(2例)において、2%粒剤を 50g/箱 (育苗箱処理)、及び 0.5%粉剤を 3回散布 (3kg/10a)、計 4回処理したところ、散布後 7~21日の最大残留量^{注1)}は 0.12, 0.13 ppmであった。

稲 (玄米) を用いた作物残留試験(2例)において、2%粒剤を 50g/箱 (育苗箱処理)、及び 10%液剤の 1,000倍希釈液を 3回茎葉散布 (150L/10a)、計 4回処理したところ、散布後 7~28日の最大残留量は 0.29, 0.38 ppmであった。

稲 (玄米) を用いた作物残留試験(2例)において、2%粒剤を 50g/箱 (育苗箱処理)、及び 10%液剤の 8倍希釈液を 3回無人へり散布 (0.8L/10a)、計 4回処理したところ、散布後 7~35日の最大残留量は 0.39, 0.40 ppmであった。

稲 (玄米) を用いた作物残留試験(2例)において、2%粒剤を 50g/箱 (育苗箱処理)、1%粒剤を 1回散布 (4kg/10a)、さらに 0.5%粉剤を 2回散布 (3kg/10a)、計 4回処理した。この試験は適用範囲内で行われていないが、試験を行った範囲内での最も大きな残留量は、散布後 7~21日において 0.13, 0.063 ppmであった。

稲 (玄米) を用いた作物残留試験(2例)において、2%粒剤を 50g/箱 (育苗箱処理)、及び 1%粒剤を 3回散布 (4kg/10a)、計 4回処理した。この試験は適用範囲内で行われていないが、試験を行った範囲内での最も大きな残留量は、散布後 7~21日において 0.04, 0.01 ppmであった。

稲 (玄米) を用いた作物残留試験(2例)において、2%粒剤を 50g/箱 (育苗箱処理)、及び 20%水溶剤の 2,000倍希釈液を 3回茎葉散布 (150L/10a)、計 4回処理したところ、散布後 7~28日の最大残留量は 0.44, 0.50 ppmであった。

稲 (玄米) を用いた作物残留試験(2例)において、12%粒剤を 50g/箱 (育苗箱処理)、40%水和剤の 100倍希釈液を 500mL/箱 (育苗箱灌注処理)、さらに 10%ゾル剤の 1,000倍希釈液を 3回茎葉散布 (150L/10a)、計 5回処理したところ、散布後 7~28日の最大残留量は 0.74, 0.54 ppmであった。

稲 (玄米) を用いた作物残留試験(2例)において、12%粒剤を 50g/箱 (育苗箱処理)、40%水和剤の 100倍希釈液を 500mL/箱 (育苗箱灌注処理)、さらに 10%ゾル剤の原液を 3回無人へり散布 (200mL/10a)、計 5回処理したところ、散布後 7~28日の最大残留量は 0.40, 0.94 ppmであった。

稲（玄米）を用いた作物残留試験(2例)において、12%粒剤を50g/箱（育苗箱処理）、40%水和剤の100倍希釈液を500mL/箱（育苗箱灌注処理）、さらに10%液剤の250倍希釈液を3回パンクル散布（25L/10a）、計5回処理したところ、散布後7～28日の最大残留量は0.24, 0.58 ppmであった。

稲（玄米）を用いた作物残留試験(2例)において、12%粒剤を50g/箱（育苗箱処理）、40%水和剤の100倍希釈液を500mL/箱（育苗箱灌注処理）、さらに10%ゾル剤の250倍希釈液を3回パンクル散布（25L/10a）、計5回処理したところ、散布後7～28日の最大残留量は0.16, 0.24 ppmであった。

②稲（稲わら）

稲（稲わら）を用いた作物残留試験(2例)において、2%粒剤を50g/箱（育苗箱処理）、及び0.5%粉剤を3回散布（3kg/10a）、計4回処理したところ、散布後7～21日の最大残留量は0.19, 0.29 ppmであった。

稲（稲わら）を用いた作物残留試験(2例)において、2%粒剤を50g/箱（育苗箱処理）、及び10%液剤の1,000倍希釈液を3回茎葉散布（150L/10a）、計4回処理したところ、散布後7～28日の最大残留量は1.54, 0.83 ppmであった。

稲（稲わら）を用いた作物残留試験(2例)において、2%粒剤を50g/箱（育苗箱処理）、及び10%液剤の8倍希釈液を3回無人ヘリ散布（0.8L/10a）、計4回処理したところ、散布後7～35日の最大残留量は3.00, 0.74 ppmであった。

稲（稲わら）を用いた作物残留試験(2例)において、2%粒剤を50g/箱（育苗箱処理）、1%粒剤を1回散布（4kg/10a）、さらに0.5%粉剤を2回散布（3kg/10a）、計4回処理した。この試験は適用範囲内で行われていないが、試験を行った範囲内での最も大きな残留量は、散布後7～21日において0.52, 1.10 ppmであった。

稲（稲わら）を用いた作物残留試験(2例)において、2%粒剤を50g/箱（育苗箱処理）、及び1%粒剤を3回散布（4kg/10a）、計4回処理した。この試験は適用範囲内で行われていないが、試験を行った範囲内での最も大きな残留量は、散布後7～21日において0.44, 0.94 ppmであった。

稲（稲わら）を用いた作物残留試験(2例)において、2%粒剤を50g/箱（育苗箱処理）、及び20%水溶剤の2,000倍希釈液を3回茎葉散布（150L/10a）、計4回処理した。この試験は適用範囲内で行われていないが、試験を行った範囲内での最も大きな残留量は、散布後7～28日において0.34, 0.81 ppmであった。

稲（稲わら）を用いた作物残留試験(2例)において、12%粒剤を50g/箱（育苗箱処理）、40%水和剤の100倍希釈液を500mL/箱（育苗箱灌注処理）、さらに10%ゾル剤の1,000倍希釈液を3回茎葉散布（150L/10a）、計5回処理したところ、散布後7～28日の最大残留量は3.6, 0.88 ppmであった。

稲（稲わら）を用いた作物残留試験(2例)において、12%粒剤を50g/箱（育苗箱処理）、40%水和剤の100倍希釈液を500mL/箱（育苗箱灌注処理）、さらに10%ゾル剤の原液を3回無人ヘリ散布（200mL/10a）、計5回処理したところ、散布後7～28日の最大残留量は1.22, 5.10 ppmであった。

稲（稲わら）を用いた作物残留試験（2例）において、12%粒剤を50g/箱（育苗箱処理）、40%水和剤の100倍希釈液を500mL/箱（育苗箱灌注処理）、さらに10%液剤の250倍希釈液を3回パンクル散布（25L/10a）、計5回処理したところ、散布後7～28日の最大残留量は0.22, 0.30 ppmであった。

稲（稲わら）を用いた作物残留試験（2例）において、12%粒剤を50g/箱（育苗箱処理）、40%水和剤の100倍希釈液を500mL/箱（育苗箱灌注処理）、さらに10%ゾル剤の250倍希釈液を3回パンクル散布（25L/10a）、計5回処理したところ、散布後7～28日の最大残留量は0.40, 0.44 ppmであった。

③だいず

だいず（乾燥子実）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を6 kg/10a（播種時播溝処理土壌混和）、及び20%水溶剤の2,000倍希釈液を2回散布（250, 300 L/10a）、計3回処理した。この試験は適用範囲内で行われていないが、試験を行った範囲内での最も大きな残留量は、散布後7～28日において0.006, 0.014 ppmであった。

④ばれいしょ

ばれいしょ（塊茎）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を6 kg/10a（植付時植溝処理土壌混和）、及び20%水溶剤の1,000倍希釈液を2回散布（150, 200 L/10a）、計3回処理した。この試験は適用範囲内で行われていないが、試験を行った範囲内での最も大きな残留量は、散布後7～42日において0.03, 0.02 ppmであった。

⑤てんさい

てんさい（根部）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の100倍希釈液を1回定植当日苗灌注（1L/冊）し、さらに20%水溶剤の1,000倍希釈液を2回散布（300, 150 L/10a）、計3回処理した。この試験は適用範囲内で行われていないが、試験を行った範囲内での最も大きな残留量は、散布後6～22日において0.04, <0.01 ppmであった。

⑥だいこん（根部）

だいこん（根部）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を6 kg/10 a（播種時播溝処理土壌混和）したところ、散布後50～70日の最大残留量は0.026, 0.010 ppmであった。

だいこん（根部）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を6 kg/10 a（播種時播溝処理土壌混和）、1%粒剤を6 kg/10a（生育期株元処理）処理し、さらに20%水溶剤の1,000倍希釈液を2回散布（200 L/10a）し、計4回処理した。この試験は適用範囲内で行われていないが、試験を行った範囲内での最も大きな残留量は、散布後7～21日において0.08, 0.12 ppmであった。

⑦だいこん（葉部）

だいこん（葉部）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を6 kg/10 a（播種時播溝処理土壌混和）したところ、散布後50～70日の最大残留量は0.064, 0.038 ppmであった。

だいこん（葉部）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を6 kg/10 a（播種時播溝処理土壌混和）、1%粒剤を6 kg/10a（生育期株元処理）処理し、さらに20%水溶剤の1,000倍希釈液を2回散布（200 L/10a）し、計4回処理した。この試験は適用範囲内で行われていないが、試験を行った範囲内での最も大きな残留量は、散布後7～21日において1.50, 1.34 ppmであった。

⑧かぶ（根部）

かぶ（根部）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を9kg/10a（播種時土壌混和）し、20%水和剤の2,000倍希釈液を2回散布（150、150～200L/10a）し、計3回処理した。この試験は適用範囲内で行われていないが、試験を行った範囲内での最も大きな残留量は、散布後3～14日において0.10, 0.15ppmであった。

⑨かぶ（葉部）

かぶ（葉部）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を9kg/10a（播種時土壌混和）し、20%水和剤の2,000倍希釈液を2回散布（150、150～200L/10a）し、計3回処理した。この試験は適用範囲内で行われていないが、試験を行った範囲内での最も大きな残留量は、散布後3～14日において2.08, 2.82ppmであった。

⑩はくさい

はくさい（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を3 g/株（定植時植穴土壌混和）、及び20%水溶剤の2,000倍希釈液を2回散布（200L, 200～300L/10a）、計3回処理したところ、散布後3～21日の最大残留量は0.32, 0.43 ppmであった。

⑪キャベツ

キャベツ（葉球）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を3 g/株（定植時植穴土壌混和処理）、及び20%水溶剤の2,000倍希釈液を2回散布（200L/10a）、計3回処理したところ、散布後3～14日の最大残留量は0.82, 0.91 ppmであった。

キャベツ（葉球）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の50倍希釈液を1回灌注処理（500mL/箱）、1%粒剤を3 g/株（定植時植穴土壌混和処理）、及び20%水溶剤の2,000倍希釈液を2回散布（200L/10a）、計4回処理した。この試験は適用範囲内で行われていないが、試験を行った範囲内での最も大きな残留量は、散布後3～14日において0.18, 0.27 ppmであった。

⑫こまつな

こまつな（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を6kg/10a（定植時植溝土壌混和处理）、及び20%水溶剤の2,000倍希釈液を2回散布（150～200, 200L/10a）、計3回処理した。この試験は適用範囲内で行われていないが、試験を行った範囲内での最も大きな残留量は、散布後14～15日において2.02, 0.40 ppmであった。

⑬みずな

みずな（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を6kg/10a（定植時植溝土壌混和）処理し、20%水溶剤の2,000倍希釈液を2回散布（200, 50～100L/10a）、計3回処理した。この試験は適用範囲内で行われていないが、試験を行った範囲内での最も大きな残留量は散布後7～14日において0.53, 1.30ppmであった。

⑭ちんげんさい

ちんげんさい（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を6kg/10a（定植時植溝土壌混和）処理し、20%水溶剤の2,000倍希釈液を2回散布（150～300L, 200L/10a）、計3回処理した。この試験は適用範囲内で行われていないが、試験を行った範囲内での最も大きな残留量は散布後3～14日において3.92, 2.02ppmであった。

⑮ブロッコリー

ブロッコリー（花蕾）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を2g/株（定植時植穴土壌混和处理）、及び20%水溶剤の2,000倍希釈液を2回散布（200L/10a）、計3回処理したところ、散布後3～21日の最大残留量は0.64, 0.14 ppmであった。

⑯しゅんぎく

しゅんぎく（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の2,000倍希釈液を1回散布（100, 500mL/箱）し、20%水溶剤の50倍希釈液を1回灌注処理（500mL/箱）し、1%粒剤を20kg/10aで1回定植時植溝土壌混和处理し、20%水溶剤の2,000倍希釈液を2回散布（200L/10a）、計5回処理した。この試験は適用範囲内で行われていないが、試験を行った範囲内での最も大きな残留量は散布後1～14日において7.5, 12.7ppmであった。

⑰レタス

施設栽培のレタス（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を2g/株（定植時植穴土壌混和处理）、及び20%水溶剤の2,000倍希釈液を2回散布（200, 300L/10a）、計3回処理した。この試験は適用範囲内で行われていないが、試験

を行った範囲内での最も大きな残留量は、散布後3～21日において1.00, 0.64 ppmであった。

施設栽培のレタス（茎葉）を用いた作物残留試験(2例)において、20%水溶剤の50倍希釈液を1回灌注処理(500mL/箱)、1%粒剤を3g/株(定植時植穴土壌混和処理)、及び20%水溶剤の2,000倍希釈液を2回散布(200, 202L/10a)、計4回処理した。この試験は適用範囲内で行われていないが、試験を行った範囲内での最も大きな残留量は、散布後3～14日において1.67, 2.58 ppmであった。

⑱食用ぎく

食用ぎく（花部）を用いた作物残留試験(1例)において、1%粒剤を2g/株(定植時植穴土壌混和)処理、及び20%水溶剤の3,000倍希釈液を2回散布(150L/10a)、計3回処理したところ、散布後7～21日の最大残留量は2.0ppmであった。

食用ぎく（花部）を用いた作物残留試験(1例)において、1%粒剤を2g/株(定植時植穴土壌混和)処理、及び20%水溶剤の2,000倍希釈液を2回散布(200L/10a)、計3回処理したところ、散布後7～21日の最大残留量は1.3ppmであった。

⑲ねぎ

ねぎ（茎葉）を用いた作物残留試験(2例)において、1%粒剤を6kg/10a(定植時植溝土壌混和処理)、1%粒剤を6kg/10a(株元処理)処理し、さらに20%水溶剤の1,000倍希釈液を2回散布(200L/10a)し、計4回処理した。この試験は適用範囲内で行われていないが、試験を行った範囲内での最も大きな残留量は、散布後3～21日において0.70, 1.00 ppmであった。

ねぎ（茎葉）を用いた作物残留試験(1例)において、20%水溶剤の50倍希釈液を1回、灌注処理(500ml/トレイ)し、1%粒剤を9kg/10a(定植時植溝土壌混和)処理し、さらに20%水溶剤の100倍希釈液を生育期株元散布(100L/10a)、2,000倍希釈液を1回散布(200L/10a)、1,000倍希釈液を1回散布(100L/10a)し、計5回処理した。この試験は適用範囲内で行われていないが、試験を行った範囲内での最も大きな残留量は、散布後3～21日において1.03 ppmであった。

ねぎ（茎葉）を用いた作物残留試験(1例)において、20%水溶剤の50倍希釈液を1回、灌注処理(500ml/トレイ)し、1%粒剤を9kg/10a(定植時植溝土壌混和)処理し、20%水溶剤の100倍希釈液を生育期株元散布(100L/10a)し、さらに2,000倍希釈液を2回散布(120～150L/10a)し、計5回処理した。この試験は適用範囲内で行われていないが、試験を行った範囲内での最も大きな残留量は、散布後3～21日において1.82 ppmであった。

⑳らっきょう

らっきょう（鱗茎）を用いた作物残留試験(2例)において、20%水溶剤の1,000倍希釈液を3回散布(200, 300L/10a)した。この試験は適用範囲内で行われていないが、試験を行った範囲内での最も大きな残留量は、散布後1～14日において0.18, 0.26 ppmであった。

②①にんじん

にんじん（根部）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を9kg/10a（播種時播溝土壌混和）処理し、20%水溶剤の1,000倍希釈液を2回散布（170L、541.7～597.2L/10a）、計3回処理した。この試験は適用範囲内で行われていないが、試験を行った範囲内での最も大きな残留量は、散布後7～21日において0.13, 0.34ppmであった。

②②トマト

施設栽培のトマト（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を2g/株（定植時植穴土壌混和処理）、及び20%水溶剤の2,000倍希釈液を2回散布（200, 300L/10a）、計3回処理した。この試験は適用範囲内で行われていないが、試験を行った範囲内での最も大きな残留量は、散布後1～7日において0.14, 0.35ppmであった。

施設栽培のトマト（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を40g/L（育苗培土混和）処理し、20%水溶剤の2,000倍希釈液を茎葉散布（1, 0.2L/トレイ）し、さらに、50倍希釈液で灌注処理（500ml/箱）し、1%粒剤を2g/株（育苗期ポット株元散布処理1回、定植時植穴土壌混和処理1回）、20%水溶剤の2,000倍希釈液を2回散布（250L/10a）、計7回処理した。この試験は適用範囲内で行われていないが、試験を行った範囲内での最も大きな残留量は、散布後1～14日において0.20, 0.34ppmであった。

施設栽培のミニトマト（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を40g/L（育苗培土混和）処理し、20%水溶剤の2,000倍希釈液を茎葉散布（1, 0.2L/トレイ）し、さらに、50倍希釈液で灌注処理（500ml/箱）し、1%粒剤を2g/株（育苗期ポット株元散布処理1回、定植時植穴土壌混和処理1回）、20%水溶剤の2,000倍希釈液を2回散布（250L、200L/10a）、計7回処理した。この試験は適用範囲内で行われていないが、試験を行った範囲内での最も大きな残留量は、散布後1～28日において0.58, 0.43ppmであった。

②③ピーマン

施設栽培のピーマン（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を2g/株（定植時植穴土壌混和処理）、及び20%水溶剤の2,000倍希釈液を2回散布（200L/10a）、計3回処理したところ、散布後1～14日の最大残留量は0.43, 1.18ppmであった。

施設栽培のピーマン（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を2g/株（定植時植穴土壌混和処理）、及び1%粒剤を2回株元処理（2g/株）、計3回処理した。この試験は適用範囲内で行われていないが、試験を行った範囲内での最も大きな残留量は、散布後1～7日において0.10, 0.07ppmであった。

②④なす

施設栽培のなす（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を2g/株（定植時植穴土壌混和处理）、及び20%水溶剤の2,000倍希釈液を2回散布（250L/10a）、計3回処理したところ、散布後1～7日の最大残留量は0.26, 0.50 ppmであった。

施設栽培のなす（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を2g/株（定植時植穴土壌混和处理）、1%粒剤を2g/株（株元処理）、及び20%水溶剤の2,000倍希釈液を2回散布（200, 157L/10a）、計4回処理した。この試験は適用範囲内で行われていないが、試験を行った範囲内での最も大きな残留量は、散布後1～7日において0.48, 0.46 ppmであった。

施設栽培のなす（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を2g/株（定植時植穴土壌混和处理）、1%粒剤2g/株を2回株元処理、計3回処理した。この試験は適用範囲内で行われていないが、試験を行った範囲内での最も大きな残留量は、散布後1～14日において0.06, 0.08 ppmであった。

㊸ししとう

施設栽培のししとう（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を2g/株（定植時植穴土壌混和处理）、及び20%水溶剤の2,000倍希釈液を2回散布（250, 150L/10a）、計3回処理したところ散布後1～7日の最大残留量は1.44, 1.50ppmであった。

施設栽培のししとう（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の2,000倍希釈液を1回茎葉散布（500, 100mL/箱）し、20%水溶剤の50倍希釈液で1回灌注処理（500mL/箱）し、20%水溶剤の200倍希釈液で1回ポット灌注処理（20mL/株）し、1%粒剤を2g/株（定植時植穴土壌混和处理1回、株元散布処理1回）し、さらに20%水溶剤の2,000倍希釈液を2回散布（300, 90L又は120L/10a）、計7回処理した。この試験は適用範囲内で行われていないが、試験を行った範囲内での最も大きな残留量は、散布後3～14日において1.42, 1.60ppmであった。

㊹とうがらし

施設栽培のとうがらし（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の2,000倍希釈液を1回茎葉散布（1000mL/箱, 200mL/3箱）し、20%水溶剤の50倍希釈液で1回灌注処理（500mL/箱）し、20%水溶剤の200倍希釈液で1回ポット灌注処理（20mL/株）し、1%粒剤を2g/株（定植時植穴土壌混和处理1回、株元散布処理1回）し、さらに20%水溶剤の2,000倍希釈液を2回散布（200L, 170L/10a）、計7回処理した。この試験は適用範囲内で行われていないが、試験を行った範囲内での最も大きな残留量は、散布後1～14日において1.8, 1.6ppmであった。

㊺きゅうり

施設栽培のきゅうり（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を

2 g/株（定植時植穴土壌混和处理）、及び 20%水溶剤の 2,000 倍希釈液を 2 回散布（200L/10a）、計 3 回処理したところ、散布後 1～7 日の最大残留量は 0.43, 0.52 ppm であった。

施設栽培のきゅうり（果実）を用いた作物残留試験（2 例）において、1%粒剤を 2 g/株（定植時植穴土壌混和处理）、1%粒剤を 2 g/株（株元処理）、及び 20%水溶剤の 2,000 倍希釈液を 2 回散布（200, 250L/10a）、計 4 回処理した。この試験は適用範囲内で行われていないが、試験を行った範囲内での最も大きな残留量は、散布後 1～7 日において 0.65, 0.38 ppm であった。

⑳メロン

施設栽培のメロン（果実）を用いた作物残留試験（2 例）において、1%粒剤を 2 g/株（定植時植穴土壌混和处理）したところ、散布後 80～99 日の最大残留量は <0.005, 0.030 ppm であった。

施設栽培のメロン（果実）を用いた作物残留試験（2 例）において、1%粒剤を 2 g/株（定植時植穴土壌混和处理）、及び 20%水溶剤の 1,000 倍希釈液を 2 回散布（250 L/10a）し、計 3 回処理した。この試験は適用範囲内で行われていないが、試験を行った範囲内での最も大きな残留量は、散布後 3～42 日において 0.47, 0.26 ppm であった。

㉑すいか

施設栽培のすいか（果実）を用いた作物残留試験（2 例）において、1%粒剤を 5 g/株（定植時植穴土壌混和处理）、1%粒剤を 2 g/株（株元処理）、及び 20%水溶剤の 2,000 倍希釈液を 2 回散布（200, 250L/10a）、計 4 回処理した。この試験は適用範囲内で行われていないが、試験を行った範囲内での最も大きな残留量は、散布後 7～28 日において 0.20, 0.13 ppm であった。

㉒ほうれんそう

ほうれんそう（茎葉）を用いた作物残留試験（2 例）において、1%粒剤を 9kg/10a（定植時植溝土壌混和处理）、20%水溶剤の 2,000 倍希釈液を 2 回散布（150, 250L/10a）、計 3 回処理した。この試験は適用範囲内で行われていないが、試験を行った範囲内での最も大きな残留量は、散布後 3～14 日において 9.33, 7.10ppm であった。

㉓オクラ

オクラ（果実）を用いた作物残留試験（2 例）において、1%粒剤を 9kg/10a（生育期株元処理）、20%水溶剤の 2,000 倍希釈液を 2 回散布（180～250, 300L/10a）、計 3 回処理した。この試験は適用範囲内で行われていないが、試験を行った範囲内での最も大きな残留量は、散布後 1～14 日において 0.46ppm, 0.56ppm であった。

㉔さやえんどう

さやえんどう（さや）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の100倍希釈液で1回定植時灌注処理（30mL/株）し、1%粒剤を9kg/10aで1回定植時植溝土壌混和処理及び1回株元散布処理し、20%水溶剤の2,000倍希釈液を2回散布（300, 200L/10a）、計5回処理した。この試験は適用範囲内で行われていないが、試験を行った範囲内での最も大きな残留量は、散布後1～14日において2.49, 1.17ppmであった。

③③ えだまめ

えだまめ（さや）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を6kg/10a（播種時播溝処理土壌混和）、及び20%水溶剤の2,000倍希釈液を2回散布（200, 220L/10a）、計3回処理した。この試験は適用範囲内で行われていないが、試験を行った範囲内での最も大きな残留量は、散布後7～28日において0.53, 0.68ppmであった。

③④ くわい

くわい（塊茎）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を3回散布（3kg/10a）したところ、散布後60～90日の最大残留量は<0.02, 0.03ppmであった。

③⑤ 温州みかん（果肉）

施設栽培の温州みかん（果肉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の1,000倍希釈液を計2回散布（400L/10a）したところ、散布後7～56日の最大残留量は0.46, 0.58ppmであった。

③⑥ 温州みかん（果皮）

施設栽培の温州みかん（果皮）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の1,000倍希釈液を計2回散布（400L/10a）したところ、散布後7～56日の最大残留量は1.95, 3.46ppmであった。

③⑦ 夏みかん（果肉）

夏みかん（果肉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の1,000倍希釈液を計2回散布（500L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は0.012, 0.034ppmであった。

③⑧ 夏みかん（果皮）

夏みかん（果皮）を用いた作物残留試験（2例）において、20%水溶剤の1,000倍希釈液を計2回散布（500L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は1.34, 0.99ppmであった。

③⑨ 夏みかん（果実）

夏みかん（果実）を用いた作物残留試験（2 例）において、20%水溶剤の 1,000 倍希釈液を計 2 回散布（500 L/10a）した。この試験は適用範囲内で行われていないが、試験を行った範囲内での最も大きな残留量は散布後 7～21 日の最大残留量は 0.49, 0.23 ppm であった。

⑩すだち(果実)

すだち（果実）を用いた作物残留試験（1 例）において、20%水溶剤の 1,000 倍希釈液を計 2 回散布（500 L/10a）したところ、散布後 7～21 日の最大残留量は 1.04 ppm であった。

⑪かぼす(果実)

すだち（果実）を用いた作物残留試験（1 例）において、20%水溶剤の 1,000 倍希釈液を計 2 回散布（500 L/10a）した。この試験は適用範囲内で行われていないが、試験を行った範囲内での最も大きな残留量は、散布後 7～21 日において 0.83 ppm であった。

⑫りんご

りんご（果実）を用いた作物残留試験（2 例）において、20%水溶剤の 1,000 倍希釈液を計 2 回散布（500, 600 L/10a）した。この試験は適用範囲内で行われていないが、試験を行った範囲内での最も大きな残留量は、散布後 7～21 日において 0.28, 0.19 ppm であった。

りんご（果実）を用いた作物残留試験（2 例）において、20%水溶剤の 500 倍希釈液を 1 回土壌表面散布（500L/10a）、2,000 倍希釈液を 3 回散布（600, 500L/10a）した。この試験は適用範囲内で行われていないが、試験を行った範囲内での最も大きな残留量は、散布後 1～21 日において 0.14, 0.10ppm であった。

⑬なし

なし（果実）を用いた作物残留試験（2 例）において、20%水溶剤の 1,000 倍希釈液を計 2 回散布（450, 500 L/10a）した。この試験は適用範囲内で行われていないが、試験を行った範囲内での最も大きな残留量は、散布後 7～28 日において 0.74, 0.45 ppm であった。

なし（果実）を用いた作物残留試験（2 例）において、20%水溶剤の 500 倍希釈液を 1 回土壌表面散布（500 L/10a）、及び 20%水溶剤の 2,000 倍希釈液を 3 回（350L/10a）、計 4 回散布した。この試験は適用範囲内で行われていないが、試験を行った範囲内での最も大きな残留量は、散布後 1～28 日において 0.16, 0.42 ppm であった。

⑭もも(果肉)

もも（果肉）を用いた作物残留試験（2 例）において、20%水溶剤の 2,000 倍希釈液を計 2 回散布（400, 450 L/10a）したところ、散布後 7～27 日の最大残留

量は 0.20, 0.48 ppm であった。

もも（果肉）を用いた作物残留試験（2 例）において、20%水溶剤の 500 倍希釈液を 1 回土壌表面散布（400, 500 L/10a）、及び 20%水溶剤の 2,000 倍希釈液を 3 回（400, 500 L/10a）、計 4 回散布した。この試験は適用範囲内で行われていないが、試験を行った範囲内での最も大きな残留量は、散布後 1～28 日において 1.03, 0.54 ppm であった。

④5 もも（果皮）

もも（果皮）を用いた作物残留試験（2 例）において、20%水溶剤の 2,000 倍希釈液を計 2 回散布（400, 450 L/10a）したところ、散布後 7～27 日の最大残留量は 1.24, 1.90 ppm であった。

もも（果皮）を用いた作物残留試験（2 例）において、20%水溶剤の 500 倍希釈液を 1 回土壌表面散布（400, 500 L/10a）、及び 20%水溶剤の 2,000 倍希釈液を 3 回（400, 500 L/10a）、計 4 回散布した。この試験は適用範囲内で行われていないが、試験を行った範囲内での最も大きな残留量は、散布後 1～28 日において 5.28, 5.26 ppm であった。

④6 ネクタリン

ネクタリン（果実）を用いた作物残留試験（2 例）において、20%水溶剤の 2,000 倍希釈液を計 3 回散布（270, 700 L/10a）したところ、散布後 1～7 日の最大残留量は 0.93, 0.86 ppm であった。

④7 すもも

すもも（果実）を用いた作物残留試験（2 例）において、20%水溶剤の 500 倍希釈液を 1 回土壌表面散布（400, 500 L/10a）、及び 20%水溶剤の 2,000 倍希釈液を 3 回（400, 500 L/10a）、計 4 回散布した。この試験は適用範囲内で行われていないが、試験を行った範囲内での最も大きな残留量は、散布後 7～21 日において 0.18, 0.18ppm であった。

④8 うめ

うめ（果実）を用いた作物残留試験（2 例）において、20%水溶剤の 2,000 倍希釈液を計 2 回散布（400 L/10a）したところ、散布後 7～21 日の最大残留量は 1.36, 1.94 ppm であった。

④9 おうとう（果実）

施設栽培のおうとう（果実）を用いた作物残留試験（2 例）において、20%水溶剤の 1,000 倍希釈液を計 2 回散布（400, 500 L/10a）した。この試験は適用範囲内で行われていないが、試験を行った範囲内での最も大きな残留量は、散布後 7～28 日において 2.76, 1.54 ppm であった。

おうとう（果実）を用いた作物残留試験（2 例）において、20%水溶剤の 500 倍

希釈液を1回土壌表面散布(500 L/10a)、及び20%水溶剤の2,000倍希釈液を2回(400, 500 L/10a)、計3回散布した。この試験は適用範囲内で行われていないが、試験を行った範囲内での最も大きな残留量は、散布後1～28日において2.03, 5.05 ppmであった。

⑥いちご(果実)

施設栽培のいちご(果実)を用いた作物残留試験(2例)において、1%粒剤を1g/株(定植時植穴土壌混和处理)したところ、散布後121～144日の最大残留量は0.61, 0.039 ppmであった。

施設栽培のいちご(果実)を用いた作物残留試験(2例)において、1%粒剤を1g/株(定植時植穴土壌混和处理)、及び20%水溶剤の2,000倍希釈液を2回散布(200～201 L/10a)し、計3回処理した。この試験は適用範囲内で行われていないが、試験を行った範囲内での最も大きな残留量は、散布後1～7日において1.58, 2.30 ppmであった。

⑦ぶどう(果実)

ぶどう(果実)を用いた作物残留試験(2例)において、20%水溶剤の1,000倍希釈液を計2回散布(400, 280～360 L/10a)したところ、散布後7～28日の最大残留量は3.36, 3.16 ppmであった。

⑧かき(果実)

かき(果実)を用いた作物残留試験(2例)において、20%水溶剤の1,000倍希釈液を計2回散布(300, 313 L/10a)した。この試験は適用範囲内で行われていないが、試験を行った範囲内での最も大きな残留量は、散布後7～21日において0.50, 0.70 ppmであった。

かき(果実)を用いた作物残留試験(2例)において、20%水溶剤の500倍希釈液を1回土壌表面散布(5 L/樹)、及び20%水溶剤の2,000倍希釈液を3回(300, 500 L/10a)、計4回散布した。この試験は適用範囲内で行われていないが、試験を行った範囲内での最も大きな残留量は、散布後1～21日において0.34, 0.55 ppmであった。

⑨マンゴー

マンゴー(果実)を用いた作物残留試験(2例)において、20%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布(200, 320L/10a)したところ、散布後1～7日の最大残留量は0.34, 0.32ppmであった。

⑩茶(荒茶)

茶(荒茶)を用いた作物残留試験(2例)において、20%水溶剤の2,000倍希釈液を計2回散布(200 L/10a)したところ、散布後7～21日の最大残留量は9.10, 19.1 ppmであった。

茶（荒茶）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を2回株元散布（12kg/10a）したところ、散布後7～56日の最大残留量は3.25, 1.43ppmであった。

なお、これらの試験結果の概要については、別紙1を参照。

注1）最大残留量：当該農薬の申請の範囲内で最も多量に用い、かつ最終使用から収穫までの期間を最短とした場合の作物残留試験（いわゆる最大使用条件下の作物残留試験）を実施し、それぞれの試験から得られた残留量。

（参考：平成10年8月7日付「残留農薬基準設定における暴露評価の精密化に関する意見具申」）

7. 乳汁への移行試験結果

乳牛6頭（各群2頭）に対し、ジノテフラン 3, 12, 48mg/頭/日をカプセルに封入した製剤を、朝の搾乳直後に7日間連続して経口投与した。

投与開始前日、及び投与開始後1、3及び7日目、最終投与後1、3、5及び7日目に、搾乳機を用いて1日に2回搾乳し、同一日の試料を十分に混合し、分析試料としてジノテフラン含量を測定したところ、いずれの試料においても、ジノテフラン及び主要代謝物UF（1-メチル-3-（テトラヒドロ-3-フリルメチル）ウレア）、DN（1-メチル-3-（テトラヒドロ-3-フリルメチル）グアニジン）、MNG（1-メチル-2-ニトログアニジン）の残留は検出されなかった。（検出限界はジノテフラン0.04ppm、主要代謝物0.02ppm）

8. 動物用医薬品の残留試験

動物用医薬品の用途においては、動物体に直接適用しないため残留試験は実施されていない。

9. ADIの評価等

食品安全基本法（平成15年法律第48号）第24条第1項第1号の規定に基づき、平成18年9月4日付け厚生労働省発食安第0904004号及び平成18年11月6日付厚生労働省発食安第1106003号により食品安全委員会あて意見を求めたジノテフランに係る食品健康影響評価について、以下のとおり評価されている。

無毒性量：22 mg/kg 体重/day
（動物種） イヌ
（投与方法） 混餌投与
（試験の種類） 慢性毒性試験
（期間） 52 週間

安全係数：100

ADI：0.22 mg/kg 体重/day

また、動物用医薬品としては上記の評価に加え以下のとおり評価されている。

本剤は水に溶かした溶液を畜・鶏舎内及びその周辺の壁、柱等に塗布又は噴霧塗布して使用され、動物体に直接適用されない。また、ジノテフランは蒸気圧が $<1.7 \times 10^{-6}$ Pa (25°C) と極めて低く、常温、常圧下ではほとんど揮発しないと考えられることから、これを動物が吸入し暴露することも考えにくい。動物体への暴露が想定される最悪のケースは、空間に噴霧された薬剤が動物体に暴露するものであるが、臨床用量の 5 倍量を鶏、牛に直接噴霧した場合にも、血液、鶏卵、乳のいずれからもジノテフランは検出されないことが確認されている（定量限界 0.01ppm）。このことから、本製剤については適切に使用される限りにおいて、製剤に含有される成分が食品を通じてヒトの健康に影響を与える可能性は無視できるものと考えられると評価されている。

10. 諸外国の状況

農薬としては、コーデックス、米国、カナダ、欧州連合（EU）、オーストラリア及びニュージーランドについて調査した結果、米国において、ばれいしょ、レタス、ぶどう、乳等に基準値が設定されているが、その他の国、地域については、残留基準は設定されていない。また、動物用医薬品としては、これらいずれの国・地域においても食用動物への直接の使用は認められていない。

11. 基準値案

(1) 残留の規制対象

ジノテフラン

(2) 基準値案

別紙2のとおりである。

なお、農産物における米国基準は、規制対象として親化合物ジノテフランの他、代謝物である 1-メチルー 3-(テトラヒドロ-3-フリルメチル) グアニジン及び 1-メチルー 3-(テトラヒドロ-3-フリルメチル) ウレアを含めて設定されている。しかしながら、我が国においては、①食品安全委員会において、代謝物の毒性が低いとされていること、②提出されている作物残留試験成績によると、比較的代謝物の残留が多い作物もあるが、主たる残留物はジノテフランであることから、親化合物であるジノテフランのみを規制対象化合物とする。

(3) 暴露評価

各食品について基準値案の上限まで又は作物残留試験成績等のデータから推定される量のジノテフランが残留していると仮定した場合、国民栄養調査結果に基づき試算される、1日当たり摂取する農薬の量（理論最大摂取量（TMDI））のADIに対する比は、以下のとおりである。詳細な暴露評価は別紙3を参照。

なお、本暴露評価は、各食品分類において、加工・調理による残留農薬の増減が全くないとの仮定の下におこなった。

	TMD I / AD I (%) <small>注)</small>
国民平均	12.9
幼小児 (1 ~ 6 歳)	23.4
妊婦	10.3
高齢者 (65 歳以上)	13.9

注) TMD I 試算は、基準値案×摂取量の総和として計算している。

ジノテフラン作物残留試験一覧表

農作物	試験圃場	試験条件			最大残留量 (ppm)	
		剤型	使用量・使用方法	回数		経過日数
稲 (玄米)	2	2%粒剤＋ 0.5%粉剤	育苗箱 50g/箱 散布 3kg/10a	4回	7, 14, 21日	圃場A:0.124 圃場B:0.131
稲 (玄米)	2	2%粒剤＋1%粒剤 ＋0.5%粉剤	育苗箱 50g/箱、散布 4kg/10a 散布 3kg/10a	4回	7, 14, 21日	圃場A:0.127(4回, 7日) (#) 圃場B:0.063(4回, 7日) (#)
稲※ (玄米)	2	2%粒剤＋ 1%粒剤	育苗箱 50g/箱 散布 4kg/10a	4回	7, 14, 21日	圃場A:0.04(4回, 14日) (#) 圃場B:0.01(4回, 7日) (#)
稲※ (玄米)	2	2%粒剤＋ 20%水溶剤	育苗箱 50g/箱 2000倍散布 150L/10a	4回	7, 14, 21, 28日	圃場A:0.44(4回, 21日) (#) 圃場B:0.50(4回, 14日) (#)
稲※ (玄米)	2	2%粒剤＋ 10%液剤	育苗箱 50g/箱 1000倍茎葉散布 150L/10a	4回	7, 14, 21, 28日 7, 14, 19, 28日	圃場A:0.29(4回, 21日) 圃場B:0.38(4回, 19日)
稲※ (玄米)	2	2%粒剤＋ 10%液剤	育苗箱 50g/箱 8倍無人ヘリ散布 0.8L/10a	4回	7, 14, 21, 28, 35日 7, 21, 28日	圃場A:0.39(4回, 14日) 圃場B:0.40(4回, 21日)
稲 (玄米)	2	12%粒剤＋ 40%水和剤＋ 10%ゾル剤	育苗箱 50g/箱 100杯希釈500mL/箱 1,000倍希釈散布150L/10a	5回	7, 14, 21日	圃場A:0.74(5回, 21日) (#) 圃場B:0.54(5回, 21日) (#)
稲 (玄米)	2	12%粒剤＋ 40%水和剤＋ 10%ゾル剤	育苗箱 50g/箱 100杯希釈500mL/箱 原液無人ヘリ散布200mL/10a	5回	7, 14, 21日	圃場A:0.40(5回, 7日) (#) 圃場B:0.94(5回, 7日) (#)
稲※ (玄米)	2	12%粒剤＋ 40%水和剤＋ 10%液剤	育苗箱 50g/箱 100杯希釈500mL/箱 250倍希釈散布25L/10a	5回	7, 14, 21日	圃場A:0.24(5回, 7日) (#) 圃場B:0.58(5回, 21日) (#)
稲 (玄米)	2	12%粒剤＋ 40%水和剤＋ 10%液剤	育苗箱 50g/箱 100杯希釈500mL/箱 250倍希釈散布25L/10a	5回	7, 14, 21日	圃場A:0.16(5回, 7日) (#) 圃場B:0.24(5回, 7日) (#)
稲 (稲わら)	2	2%粒剤＋ 0.5%粉剤	育苗箱 50g/箱 散布 3kg/10a	4回	7, 14, 21日	圃場A:0.19 圃場B:0.29
稲 (稲わら)	2	2%粒剤＋1%粒剤 ＋0.5%粉剤	育苗箱 50g/箱、散布 4kg/10a 散布 3kg/10a	4回	7, 14, 21日	圃場A:0.52(4回, 7日) (#) 圃場B:1.10(4回, 7日) (#)

ジノテフラン作物残留試験一覧表

農作物	試験圃場	試験条件				最大残留量 (ppm)
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
稲 (稲わら)	2	2%粒剤＋ 1%粒剤	育苗箱 50g/箱 散布 4kg/10a	4回	7, 14, 21日	圃場A:0.44(4回, 7日) (#) 圃場B:0.94(4回, 7日) (#)
稲 (稲わら)	2	2%粒剤＋ 20%水溶剤	育苗箱 50g/箱 2000倍散布 150L/10a	4回	7, 14, 21, 28日	圃場A:0.34(4回, 7日) (#) 圃場B:0.81(4回, 7日) (#)
稲 (稲わら)	2	2%粒剤＋ 10%液剤	育苗箱 50g/箱 1000倍茎葉散布 150L/10a	4回	7, 14, 21, 28日 7, 14, 19, 28日	圃場A:1.54 圃場B:0.83
稲 (稲わら)	2	2%粒剤＋ 10%液剤	育苗箱 50g/箱 8倍無人ヘリ散布 0.8L/10a	4回	7, 14, 21, 28, 35日 7, 21, 28日	圃場A:3.00 圃場B:0.74
稲 (稲わら)	2	12%粒剤＋ 40%水和剤＋ 10%ゾル剤	育苗箱 50g/箱 100杯希釈500mL/箱 1,000倍希釈散布150L/10a	5回	7, 14, 21日	圃場A:3.6(5回, 7日) (#) 圃場B:0.88(5回, 7日) (#)
稲 (稲わら)	2	12%粒剤＋ 40%水和剤＋ 10%ゾル剤	育苗箱 50g/箱 100杯希釈500mL/箱 原液無人ヘリ散布200mL/10a	5回	7, 14, 21日	圃場A:1.22(5回, 7日) (#) 圃場B:5.10(5回, 7日) (#)
稲※ (稲わら)	2	12%粒剤＋ 40%水和剤＋ 10%液剤	育苗箱 50g/箱 100杯希釈500mL/箱 250倍希釈散布25L/10a	5回	7, 14, 21日	圃場A:0.22(5回, 7日) (#) 圃場B:0.30(5回, 21日) (#)
稲 (稲わら)	2	12%粒剤＋ 40%水和剤＋ 10%液剤	育苗箱 50g/箱 100杯希釈500mL/箱 250倍希釈散布25L/10a	5回	7, 14, 21日	圃場A:0.40(5回, 7日) (#) 圃場B:0.44(5回, 7日) (#)
だいず※ (乾燥子実)	2	1%粒剤＋ 20%水溶剤	播種時播溝処理土壌混和 6kg/10a 2000倍散布 250, 300L/10a	3回	7, 14, 21, 28日	圃場A:0.006(3回, 14日) (#) 圃場B:0.014(3回, 14日) (#)
ばれいしょ (塊茎)	2	1%粒剤＋ 20%水溶剤	植付時植溝土壌混和 6kg/10a 1,000倍散布 150, 200L/10a	3回	7, 13, 28, 42日 7, 14, 28, 42日	圃場A:0.03(3回, 7日) (#) 圃場B:0.02(3回, 7日) (#)
てんさい (根部)	2	20%水溶剤	100倍散布 定植当日苗灌注 1L/冊 1,000倍散布 300, 150L/10a	3回	7, 14, 22日 6, 13, 21日	圃場A:0.04(3回, 7日) (#) 圃場B:<0.01(3回, 6日) (#)
だいこん※ (根部)	2	1%粒剤	播種時播溝処理 6kg/10a	1回	50, 57, 64日 56, 63, 70日	圃場A:0.026(1回, 57日) 圃場B:0.010

ジノテフラン作物残留試験一覧表

農作物	試験圃場	試験条件			最大残留量 (ppm)	
		剤型	使用量・使用方法	回数		経過日数
だいこん (根部)	2	1%粒剤＋ 20%水溶剤	播種時播溝処理 6kg/10a、株元処理 6kg/10a 1,000倍散布 200L/10a	4回	7, 14, 21日	圃場A:0.08(4回, 7日) (#) 圃場B:0.12(4回, 7日) (#)
だいこん [※] (葉部)	2	1%粒剤	播種時播溝処理 6kg/10a	1回	50, 57, 64日 56, 63, 70日	圃場A:0.064 圃場B:0.038(1回, 63日)
だいこん (葉部)	2	1%粒剤＋ 20%水溶剤	播種時播溝処理 6kg/10a、株元処理 6kg/10a 1,000倍散布 200L/10a	4回	7, 14, 21日	圃場A:1.50(4回, 7日) (#) 圃場B:1.34(4回, 7日) (#)
かぶ (根部)	2	1%粒剤＋ 20%水溶剤	播種時土壌混和 9kg/10a 2,000倍希釈液150, 150～200L/10a	3回	3, 7, 14日	圃場A:0.10(3回, 3日) (#) 圃場B:0.15(3回, 3日) (#)
かぶ (葉部)	2	1%粒剤＋ 20%水溶剤	播種時土壌混和 9kg/10a 2,000倍希釈液150, 150～200L/10a	3回	3, 7, 14日	圃場A:2.08(3回, 3日) (#) 圃場B:2.82(3回, 3日) (#)
はくさい (茎葉)	2	1%粒剤＋ 20%水溶剤	定植時植穴土壌混和 3kg/10a 2,000倍散布 200, 200～300L/10a	3回	3, 7, 14, 21日	圃場A:0.320 圃場B:0.426
キャベツ [※] (葉球)	2	1%粒剤＋ 20%水溶剤	植穴処理 3g/株 2,000倍散布 200L/10a	3回	3, 7, 14日	圃場A:0.820 圃場B:0.913(3回, 7日)
キャベツ (葉球)	2	20%水溶剤＋1%粒剤 ＋20%水溶剤	50倍散布 500ml/箱、植穴土壌混和 3g/株 2,000倍散布 200, 202L/10a	4回	3, 7, 14日	圃場A:0.18(3回, 3日) (#) 圃場B:0.27(3回, 3日) (#)
こまつな [※] (茎葉)	2	1%粒剤＋ 20%水溶剤	定植時植溝土壌混和 6kg/10a 2,000倍希釈液150～200, 200L/10a	3回	3, 7, 14, 15日	圃場A:2.02(3回, 14日) (#) 圃場B:0.40(3回, 15日) (#)
みずな [※] (茎葉)	2	1%粒剤＋ 20%水溶剤	定植時植溝土壌混和 6kg/10a 2,000倍希釈液200, 50～100L/10a	3回	3, 7, 14日	圃場A:0.53(3回, 7日) (#) 圃場B:1.30(3回, 7日) (#)
ちんげんさい [※] (茎葉)	2	1%粒剤＋ 20%水溶剤	定植時植溝土壌混和 6kg/10a 2,000倍希釈液150～300, 200L/10a	3回	3, 7, 14日	圃場A:3.92(3回, 3日) (#) 圃場B:2.02(3回, 3日) (#)
ブロッコリー (花蕾)	2	1%粒剤＋ 20%水溶剤	植穴土壌混和 2g/株 2,000倍散布 200L/10a	3回	3, 7, 14, 21日	圃場A:0.64 圃場B:0.14
しゅんぎく (茎葉)	2	20%水溶剤＋ 1%粒剤＋ 20%水溶剤	2,000倍希釈液茎葉散布100、500mL/箱 50倍希釈液灌注処理 500mL/箱 定植時植溝土壌混和 6kg/10a 2,000倍希釈液 200L/10a	5回	1, 3, 7, 13, 14日	圃場A:7.5(5回, 1日) (#) 圃場B:12.7(5回, 1日) (#)

ジノテフラン作物残留試験一覧表

農作物	試験圃場	試験条件				最大残留量 (ppm)
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
レタス (茎葉)	2	1%粒剤＋ 20%水溶剤	植穴土壌混和 2g/株 2,000倍散布 200,300L/10a	3回	3, 7, 14, 21日	圃場A:1.00(3回, 3日) (#) 圃場B:0.635(3回, 3日) (#)
レタス (茎葉)	2	20%水溶剤＋1%粒剤 ＋20%水溶剤	50倍散布 500ml/箱、植穴土壌混和 3g/株 2,000倍散布 200,202L/10a	4回	3, 7, 14日	圃場A:1.67(3回, 3日) (#) 圃場B:2.58(3回, 3日) (#)
食用ぎく (花部)	1	1%粒剤＋ 20%水溶剤	定植時植穴土壌混和 2g/株 3,000倍散布 150L/10a	3回	7, 14, 21日	圃場A:2.0(3回, 7日) (#)
食用ぎく (花部)	1	1%粒剤＋ 20%水溶剤	定植時植穴土壌混和 2g/株 2,000倍散布 200L/10a	3回	7, 14, 21日	圃場A:1.3(3回, 7日) (#)
ねぎ [※] (茎葉)	2	1%粒剤＋ 20%水溶剤	植溝土壌混和 6kg/10a、株元処理 6kg/10a 1,000倍散布 200L/10a	4回	3, 7, 14, 21日	圃場A:0.70(4回, 3日) (#) 圃場B:1.00(4回, 14日) (#)
ねぎ (茎葉)	1	20%水溶剤＋1%粒剤 ＋20%水溶剤	50倍散布 500ml/箱、植溝土壌混和 9kg/10a <small>生育期100倍株元散布 100L/10a、2,000倍散布 200L/10a、1,000倍散布100L/10a</small>	5回	3, 7, 14, 21日	圃場A:1.03(5回, 3日) (#)
ねぎ (茎葉)	1	20%水溶剤＋1%粒剤 ＋20%水溶剤	50倍散布 500ml/箱、植溝土壌混和 9kg/10a <small>生育期100倍株元灌注 100L/10a、2,000倍散布 120～150L/10a</small>	5回	3, 7, 14, 21日	圃場A:1.82(5回, 3日) (#)
らっきょう (鱗茎)	2	20%水溶剤	1,000倍散布 200,300L/10a	3回	1, 3, 7, 14日	圃場A:0.18(3回, 1日) (#) 圃場B:0.26(3回, 1日) (#)
にんじん (根部)	2	1%粒剤＋ 20%水溶剤	播種時播溝土壌混和 9kg/10a 1,000倍希釈液170,541.7～597.2L/10a	3回	7, 14, 21日	圃場A:0.13(3回, 14日) (#) 圃場B:0.34(3回, 14日) (#)
トマト [※] (果実)	2	1%粒剤＋ 20%水溶剤	植穴処理 2g/株 2,000倍散布 200,300L/10a	3回	1, 3, 7日	圃場A:0.142(3回, 1日) (#) 圃場B:0.347(3回, 3日) (#)
トマト (果実)	2	1%粒剤＋ 20%水溶剤＋ 1%粒剤＋ 20%水溶剤	育苗培土混和处理 40g/L 2,000倍希釈液 1,0.2L/トレイ ポット株元散布+植穴土壌混和 2g/株 2,000倍希釈液 250L/10a	7回	1, 3, 7, 14日	圃場A:0.34(7回, 7日) (#) 圃場B:0.20(7回, 1日) (#)
ミニトマト (果実)	2	1%粒剤＋ 20%水溶剤＋ 1%粒剤＋ 20%水溶剤	育苗培土混和处理 40g/L 2,000倍希釈液 1,0.2L/トレイ ポット株元散布+植穴土壌混和 2g/株 2,000倍希釈液 250,200L/10a	7回	1, 3, 7, 14, 28日	圃場A:0.58(7回, 7日) (#) 圃場B:0.43(7回, 7日) (#)

ジノテフラン作物残留試験一覧表

農作物	試験圃場	試験条件				最大残留量 (ppm)
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
ピーマン (果実)	2	1%粒剤＋ 20%水溶剤	植穴処理 2g/株 2,000倍散布 200L/10a	3回	1, 3, 7, 14日	圃場A:0.431 圃場B:1.18
ピーマン [※] (果実)	2	1%粒剤	植穴土壌混和 2g/株 株元処理 2g/株	3回	1, 3, 7日	圃場A:0.10(3回, 3日) (#) 圃場B:0.07(3回, 1日) (#)
なす (果実)	2	1%粒剤＋ 20%水溶剤	植穴処理 3g/株 2,000倍散布 250L/10a	3回	1, 3, 7日	圃場A:0.264 圃場B:0.504
なす (果実)	2	1%粒剤＋ 20%水溶剤	植穴土壌混和 2g/株、株元処理 2g/株 2,000倍散布 200, 157L/10a	4回	1, 3, 7日	圃場A:0.48(4回, 1日) (#) 圃場B:0.46(4回, 1日) (#)
なす [※] (果実)	2	1%粒剤	植穴土壌混和 2g/株 株元処理 2g/株	3回	1, 3, 7, 14日	圃場A:0.06(3回, 1日) (#) 圃場B:0.08(3回, 7日) (#)
ししとう (果実)	2	1%粒剤＋ 20%水溶剤	定植時植穴土壌混和 2g/株 2,000倍希釈液 250, 150L/10a	3回	1, 3, 7日	圃場A:1.44(3回, 1日) 圃場B:1.50(3回, 3日)
ししとう (果実)	2	20%水溶剤＋ 1%粒剤＋ 20%水溶剤	2,000倍希釈液 500, 100mL/ 散布 2,000倍希釈液 500mL/箱 灌注 200倍希釈液 20mL/株 灌注 植穴土壌混和＋株元散布 2g/株 2,000倍希釈液 300, 90, 120L/10a	7回	1, 3, 7, 14日	圃場A:1.42(7回, 3日) (#) 圃場B:1.60(7回, 1日) (#)
とうがらし (果実)	2	20%水溶剤＋ 1%粒剤＋ 20%水溶剤	2,000倍希釈液 1000mL/箱, 200mL/3箱 50倍希釈液 500mL/株 灌注 200倍希釈液 20mL/株 灌注 植穴土壌混和＋株元散布 2g/株 2,000倍希釈液 200, 170L/10a	7回	1, 3, 7, 14日	圃場A:1.8(7回, 7日) (#) 圃場B:1.6(7回, 1日) (#)
きゅうり [※] (果実)	2	1%粒剤＋ 20%水溶剤	植穴処理 2g/株 2,000倍散布 200L/10a	3回	1, 3, 7日	圃場A:0.43(3回, 3日) 圃場B:0.52(3回, 3日)
きゅうり [※] (果実)	2	1%粒剤＋ 20%水溶剤	植穴土壌混和 2g/株、株元処理 2g/株 2,000倍散布 200, 250L/10a	4回	1, 3, 7日	圃場A:0.65(4回, 3日) (#) 圃場B:0.38(4回, 1日) (#)
メロン [※] (果実)	2	1%粒剤	植穴処理 2g/株	1回	80, 87, 94日 85, 92, 99日	圃場A:<0.005 圃場B:0.030(1回, 92日)

ジノテフラン作物残留試験一覧表

農作物	試験圃場	試験条件				最大残留量 (ppm)
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
メロン [※] (果実)	2	1%粒剤＋ 20%水溶剤	植穴処理 2g/株 1,000倍散布 250L/10a	3回	3, 14, 28, 42日	圃場A:0.47(3回, 28日) (#) 圃場B:0.26(3回, 28日) (#)
すいか [※] (果実)	2	1%粒剤＋ 20%水溶剤	植穴土壌混和 5g/株、株元処理 2g/株 2,000倍散布 200, 250L/10a	4回	7, 14, 21, 28日	圃場A:0.20(4回, 21日) (#) 圃場B:0.13(4回, 21日) (#)
ほうれんそう (茎葉)	2	1%粒剤＋ 20%水溶剤	定植時植溝土壌混和 9kg/10a 2,000倍散布 150, 250L/10a	3回	3, 7, 14日	圃場A:9.33(3回, 3日) (#) 圃場B:7.10(3回, 3日) (#)
オクラ (果実)	2	1%粒剤＋ 20%水溶剤	生育期株元処理 9kg/10a 2,000倍散布 180～250, 300L/10a	3回	1, 3, 7, 14日	圃場A:0.46(3回, 1日) (#) 圃場B:0.56(3回, 1日) (#)
さやえんどう (さや)	2	20%水溶剤＋ 1%粒剤＋ 20%水溶剤	100倍希釈液 30mL/株 灌注 植溝土壌混和＋株元散布 9kg/10a 2,000倍希釈液 300, 200L/10a	5回	1, 3, 7, 14日	圃場A:2.49(5回, 3日) (#) 圃場B:1.17(5回, 1日) (#)
えだまめ [※] (さや)	2	1%粒剤＋ 20%水溶剤	播種時播溝処理土壌混和 6kg/10a 2,000倍散布 200, 220L/10a	3回	7, 14, 21, 28日	圃場A:0.534(3回, 14日) (#) 圃場B:0.678(3回, 7日) (#)
くわい (塊茎)	2	1%粒剤	3kg/10a	3回	30, 60, 90日	圃場A:<0.02(3回, 60日) 圃場B:0.03(3回, 60日)
温州みかん [※] (果肉)	2	20%水溶剤	1,000倍散布 400L/10a	2回	7, 14, 28, 42, 56日 8, 14, 28, 42, 49日	圃場A:0.460(2回, 28日) 圃場B:0.581(2回, 28日)
温州みかん [※] (果皮)	2	20%水溶剤	1,000倍散布 400L/10a	2回	7, 14, 28, 42, 56日 8, 14, 28, 42, 49日	圃場A:1.95(2回, 28日) 圃場B:3.46
夏みかん [※] (果肉)	2	20%水溶剤	1,000倍散布 500L/10a	2回	7, 14, 21日	圃場A:0.012(2回, 14日) 圃場B:0.034(2回, 14日)
夏みかん [※] (果皮)	2	20%水溶剤	1,000倍散布 500L/10a	2回	7, 14, 21日	圃場A:1.34(2回, 14日) 圃場B:0.99
夏みかん [※] (果実)	2	20%水溶剤	1,000倍散布 500L/10a	2回	7, 14, 21日	圃場A:0.486(2回, 14日) 圃場B:0.233
すだち (果実)	1	20%水溶剤	1,000倍散布 500L/10a	2回	7, 14, 21日	圃場A:1.04

ジノテフラン作物残留試験一覧表

農作物	試験圃場	試験条件			最大残留量 (ppm)	
		剤型	使用量・使用方法	回数		経過日数
かぼす (果実)	1	20%水溶剤	1,000倍散布 500L/10a	2回	7, 14, 21日	圃場A:0.83
りんご (果実)	2	20%水溶剤	1,000倍散布 500, 600L/10a	2回	7, 14, 21日	圃場A:0.276(2回, 7日) (#) 圃場B:0.187(2回, 7日) (#)
りんご (果実)	2	20%水溶剤	500倍土壌表面散布 500L/10a 2,000倍希釈液 600, 500L/10a	4回	1, 3, 7, 14, 21日	圃場A:0.14(3回, 1日) (#) 圃場B:0.10(3回, 7日) (#)
なし (果実)	2	20%水溶剤	1,000倍散布 450, 500L/10a	2回	7, 14, 21, 28日	圃場A:0.736(2回, 7日) (#) 圃場B:0.454(2回, 7日) (#)
なし (果実)	2	20%水溶剤	500倍土壌表面散布 500L/10a 2,000倍散布 350L/10a	4回	1, 3, 7, 14, 21, 28日	圃場A:0.16(4回, 1日) (#) 圃場B:0.42(4回, 1日) (#)
もも (果肉)	2	20%水溶剤	2,000倍散布 400, 450L/10a	2回	7, 14, 20, 26日 7, 14, 21, 27日	圃場A:0.196 圃場B:0.476
もも (果皮)	2	20%水溶剤	2,000倍散布 400, 450L/10a	2回	7, 14, 20, 26日 7, 14, 21, 27日	圃場A:1.24 圃場B:1.90
もも [*] (果肉)	2	20%水溶剤	500倍土壌表面散布 400, 500L/10a 2,000倍散布 400, 500L/10a	4回	1, 3, 7, 14, 21, 28日	圃場A:1.03(4回, 21日) (#) 圃場B:0.54(4回, 3日) (#)
もも (果皮)	2	20%水溶剤	500倍土壌表面散布 400, 500L/10a 2,000倍散布 400, 500L/10a	4回	1, 3, 7, 14, 21, 28日	圃場A:5.28(4回, 1日) (#) 圃場B:5.26(4回, 1日) (#)
ネクタリン (果実)	2	20%水溶剤	2,000倍散布 270, 700L/10a	3回	1, 3, 7日	圃場A:0.93 圃場B:0.86
すもも (果実)	2	20%水溶剤	500倍土壌表面散布 500L/10a 2,000倍散布 400, 500L/10a	4回	1, 3, 7, 21日	圃場A:0.18(4回, 7日) (#) 圃場B:0.18(4回, 7日) (#)
うめ (果実)	2	20%水溶剤	2,000倍散布 400L/10a	2回	7, 14, 21日	圃場A:1.36 圃場B:1.94
おうとう [*] (果実)	2	20%水溶剤	1,000倍散布 400, 500L/10a	2回	7, 14, 21, 28日	圃場A:2.76(2回, 14日) (#) 圃場B:1.54(2回, 7日) (#)
おうとう (果実)	2	20%水溶剤	500倍土壌表面散布 500L/10a 2,000倍散布 400, 500L/10a	3回	1, 7, 14, 21, 28日 1, 7, 13, 20, 27日	圃場A:2.03(3回, 1日) (#) 圃場B:5.05(3回, 1日) (#)

ジノテフラン作物残留試験一覧表

農作物	試験圃場	試験条件			最大残留量 (ppm)	
		剤型	使用量・使用方法	回数		経過日数
いちご (果実)	2	1%粒剤	定植時植穴処理 1g/株	1回	121, 128, 135日 130, 137, 144日	圃場A:0.61 圃場B:0.039
いちご [※] (果実)	2	1%粒剤+ 20%水溶剤	定植時植穴処理 1g/株 2,000倍散布 200~201L/10a	3回	1, 3, 7日	圃場A:1.58(3回, 3日) (#) 圃場B:2.30(3回, 3日) (#)
ぶどう [※] (果実)	2	20%水溶剤	1,000倍散布 400, 280~360L/10a	2回	7, 14, 21, 28日	圃場A:3.36 圃場B:3.16(2回, 14日)
かき [※] (果実)	2	20%水溶剤	1,000倍散布 300, 313L/10a	2回	7, 14, 20, 日 7, 14, 21日	圃場A:0.50(2回, 7日) (#) 圃場B:0.70(2回, 14日) (#)
かき [※] (果実)	2	20%水溶剤	500倍土壌表面散布 5L/樹 2,000倍散布 300, 500L/10a	4回	1, 3, 7, 14, 21日	圃場A:0.34(4回, 3日) (#) 圃場B:0.55(4回, 1日) (#)
マンゴー (果実)	2	20%水溶剤	2,000倍散布 200, 320L/10a	3回	1, 3, 7日	圃場A:0.34(3回, 1日) 圃場B:0.32(3回, 1日)
茶 [※] (荒茶)	2	20%水溶剤	2,000倍散布 200L/10a	2回	7, 14, 21日	圃場A:9.10(2回, 7日) 圃場B:19.1(2回, 7日)
茶 (荒茶)	2	1%粒剤	株元散布 12kg/10a	2回	7, 14, 28, 56日	圃場A:3.25(2回, 28日) 圃場B:1.43(2回, 28日)

今回、新たに提出された作物残留試験成績に網を付けて示している。

これらの作物残留試験は、申請の範囲内で試験が行われていない。

※印で示した作物については、申請の範囲内で最高の値を示した括弧内に示す条件において得られた値を採用した。

最大使用条件下の作物残留試験条件に、アンダーラインを付している。

なお、食品安全委員会農薬専門調査会の農薬評価書「ジノテフラン」に記載されている作物残留試験成績は、各試験条件における残留農薬の最高値及び各試験場、検査機関における最高値の平均値を示したものであり、上記の最大残留量の定義と異なっている。

農薬名 ジノテフラン

食品名	基準値案 ppm	基準値 現行 ppm	登録 有無	参考基準値			作物残留試験成績 ppm
				登録保留 基準値 ppm	国際 基準 ppm	外国 基準値 ppm	
米(玄米をいう)	2	1	○	2			0.12,0.13/0.29,0.38/0.39,0.40/0.13(#),0.063(#)/0.04,0.01/0.44(#),0.50(#)/0.74(#),0.54(#)/0.40(#),0.94(#)/0.24(#),0.58(#)/0.16(#),0.24(#)
大豆	0.1	0.1	○				0.006(#),0.014(#,\$)
ばれいしょ	0.2	0.2	○	0.2		0.05 アメカ	0.03(#,\$),0.02(#)
てんさい	0.2	0.2	○	0.2			0.04(#,\$),<0.01(#)
だいこん類(ラディッシュを含む)の根	0.5	0.5	○	0.2			0.026,0.010/0.08(#),0.12(#,\$)
だいこん類(ラディッシュを含む)の葉	3	3	○	5			0.064,0.038/1.50(#),1.34(#)
かぶ類の根	0.5	0.2	○/申	0.2			0.10(#),0.15(#)
かぶ類の葉	5	5	○	5			2.08(#),2.82(#)
クレソン	5	5	○	5		5.0 アメカ	
はくさい	1.4	1.4	○	1.4		1.4 アメカ	0.32,0.43
キャベツ	2	2	○	2		1.4 アメカ	0.82,0.91/0.18(#),0.27(#)
芽キャベツ	1.4	1.4				1.4 アメカ	
ケール	5	5	○	5			
こまつな	5	5	○	5			2.02(#,\$),0.40(#)
きょうな	3	5	○	5			0.53(#),1.30(#,\$)
チンゲンサイ	10	5	申	5			3.92(#,\$),2.02(#)
カリフラワー(注2)	2	2				1.4 アメカ	
ブロッコリー	2	2	○	2		1.4 アメカ	0.64(\$),0.14
その他のあぶらな科野菜	5	5	○/経	5		5.0 アメカ	
アーティチョーク	5	5					
チコリ	5	5				5.0 アメカ	
エンダイブ	5	5				5.0 アメカ	
しゅんぎく	20	5	申			5.0 アメカ	7.5(#),12.7(#)
レタス(サラダ菜及びちしゃを含む)	5	5	○/経	5		5.0 アメカ	1.00(#),0.635(#)/1.67(#),2.58(#)
その他のさく科野菜	5	5	○			5.0 アメカ	2,0,1,3
ねぎ(リーキを含む)	5	5	○	5			0.70(#),1.00(#)/1.03(#)/1.82(#)
その他のゆり科野菜	0.7	0.7	○	5			0.18(#),0.26(#)
にんじん	0.7	0.2	申	0.2			0.13(#),0.34(#)
パセリ	5	5				5.0 アメカ	
セロリ	5	5				5.0 アメカ	
みつば	5	5					
その他のせり科野菜	5	5	経			5.0 アメカ	
トマト	2	2	○/申	2		0.7 アメカ	0.14(#),0.35(#)/0.20(#),0.34(#)/0.58(#),0.43(#)/平均0.096・最大0.17(+,n=30)
ピーマン	3	3	○	3		0.7 アメカ	0.43,1.18(\$)/0.10(#),0.07(#)/平均0.18・最大0.46(+,n=16)
なす	2	2	○	2		0.7 アメカ	0.26,0.50(\$)/0.48(#),0.46(#)/0.06(#),0.08(#)
その他のなす科野菜	5	5	○/申	5		0.7 アメカ	1.44,1.50/1.42(#),1.60(#)(シントウ) /1.8(#),1.6(#)(とうがらし)
きゅうり(ガーキンを含む)	2	2	○	2		0.5 アメカ	0.43,0.52/0.65(#,\$),0.38(#)
かぼちゃ(スカッシュを含む)	0.5	0.5				0.5 アメカ	
しろうり	2	2	○			0.5 アメカ	
すいか	0.5	0.5	○	1		0.5 アメカ	0.20(#),0.13(#)
メロン類果実	1	1	○			0.5 アメカ	<0.005,0.03/0.47(#),0.26(#)
まくわうり	0.5	0.5				0.5 アメカ	
その他のうり科野菜	2	2	○			0.5 アメカ	
ほうれんそう	15	5	申	5		5.0 アメカ	9.33(#),7.10(#)/平均1.09・最大3.62(+,n=12)(注3)
オクラ	2		申	5			0.46(#),0.56(#)
未成熟えんどう	5		申				2.49(#),1.17(#)
えだまめ	2	2	○	2			0.53(#),0.68(#)
その他の野菜	5	5	○	5		5.0 アメカ	<0.02,0.03(クワイ)
みかん	2	2	○	2			0.46,0.58
なつみかん							0.012,0.034
なつみかんの外果皮							1.34,0.99
なつみかんの果実全体	1	1	○	1			0.49,0.23
レモン	3	3	○	3			
オレンジ(ネーブルオレンジを含む)	3	3	○	3			
グレープフルーツ	3	3	○	3			
ライム	3	3	○	3			
その他のかんきつ類果実	3	3	○	3			1.04(すだち)/0.83(かぼす)

農薬名 ジノテフラン

食品名	基準値案 ppm	基準値 現行 ppm	登録 有無	参考基準値			作物残留試験成績 ppm
				登録保留 基準値 ppm	国際 基準 ppm	外国 基準値 ppm	
りんご	0.5	0.7	○	0.7			0.28(#),0.19(#)/ 0.14(#), 0.10(#)
日本なし	1	1	○	1			0.74(#),0.45(#)/0.16(#),0.42(#)
西洋なし	1	1	○	1			
もも	3	3	○	3			0.20,0.48/1.03(#,\$),0.54(#)
ネクタリン	2	2	○	2			0.93,0.86
あんず(アブリコットを含む)	5		申				
すもも(プルーンを含む)	0.5	10	○	10			0.18(#), 0.18(#)
うめ	5	5	○	5			1.36,1.94
おうとう(チェリーを含む)	10	10	○	10			2.76(#),1.54(#)/2.03(#),5.05(#)
いちご	2	2	○	2			0.61(\$),0.039/1.58(#),2.30(#)
ぶどう	10	10	○	10	0.9	アメリカ	3.36,3.16
かき	2	2	○	2			0.50(#),0.70(#)/0.34(#),0.55(#)
マンゴー	1		申				0.34, 0.32
その他の果実	0.7	0.7		0.7	0.7	アメリカ	
綿実	0.4	0.4			0.4	アメリカ	
茶	25	25	○	25			9.10,19.1(\$)/3.25, 1.43
みかんの皮	10	10	○	10			1.95,3.46(\$)
その他のスパイス類(みかんの皮を除く。)	5	5		5			
その他のハーブ類	5	5	○/経	5			
牛の筋肉	0.05	0.05			0.05	アメリカ	
豚の筋肉	0.05	0.05			0.05	アメリカ	
羊の筋肉	0.05	0.05			0.05	アメリカ	
馬の筋肉	0.05	0.05			0.05	アメリカ	
山羊の筋肉	0.05	0.05			0.05	アメリカ	
その他の陸棲哺乳類に属する動物の筋肉							
牛の脂肪	0.05	0.05			0.05	アメリカ	
豚の脂肪	0.05	0.05			0.05	アメリカ	
羊の脂肪	0.05	0.05			0.05	アメリカ	
馬の脂肪	0.05	0.05			0.05	アメリカ	
山羊の脂肪	0.05	0.05			0.05	アメリカ	
その他の陸棲哺乳類に属する動物の脂肪							
牛の肝臓	0.05	0.05			0.05	アメリカ	
豚の肝臓	0.05	0.05			0.05	アメリカ	
羊の肝臓	0.05	0.05			0.05	アメリカ	
馬の肝臓	0.05	0.05			0.05	アメリカ	
山羊の肝臓	0.05	0.05			0.05	アメリカ	
その他の陸棲哺乳類に属する動物の肝臓							
牛の腎臓	0.05	0.05			0.05	アメリカ	
豚の腎臓	0.05	0.05			0.05	アメリカ	
羊の腎臓	0.05	0.05			0.05	アメリカ	
馬の腎臓	0.05	0.05			0.05	アメリカ	
山羊の腎臓	0.05	0.05			0.05	アメリカ	
その他の陸棲哺乳類に属する動物の腎臓							
牛の食用部分	0.05	0.05			0.05	アメリカ	
豚の食用部分	0.05	0.05			0.05	アメリカ	
羊の食用部分	0.05	0.05			0.05	アメリカ	
馬の食用部分	0.05	0.05			0.05	アメリカ	
山羊の食用部分	0.05	0.05			0.05	アメリカ	
その他の陸棲哺乳類に属する動物の食用部分							
乳	0.05	0.05			0.05	アメリカ	

(#)で示した作物残留試験成績は、適用範囲内で行われていない。

(\$)で示した大豆、ばれいしょ、てんさい、だいこん類の根、こまつな、きょうな、ちんげんさい、ブロッコリー、ピーマン、なす、きゅうり、もも、いちご、茶及びみかんの皮は、作物残留試験成績のばらつきを考慮し、試験が行われた範囲内で最も大きな残留値を考慮した。

注)カリフラワーの基準値は、ブロッコリー基準値との整合性を考慮した。

ジノテフラン推定摂取量 (単位: $\mu\text{g}/\text{人}/\text{day}$)

食品群	基準値案 (ppm)	国民平均 TMDI	高齢者 (65歳以上) TMDI	妊婦 TMDI	幼小児 (1~6歳) TMDI
米(玄米)	2	370.2	377.6	279.4	195.4
大豆	0.1	5.6	5.9	4.6	3.4
ばれいしょ	0.2	7.3	5.4	8.0	4.3
てんさい	0.2	0.9	0.8	0.7	0.7
だいこん類(ラディッシュを含む)の根	0.5	22.5	29.3	14.4	9.4
だいこん類(ラディッシュを含む)の葉	3	6.6	10.2	2.7	1.5
かぶ類の根	0.5	1.3	2.1	0.4	0.4
かぶ類の葉	5	2.5	5.5	1.5	0.5
クレソン	5	0.5	0.5	0.5	0.5
はくさい	1.4	41.2	44.4	30.7	14.4
キャベツ	2	45.6	39.8	45.8	19.6
芽キャベツ	1.4	0.1	0.1	0.1	0.1
ケール	5	0.5	0.5	0.5	0.5
こまつな	5	21.5	29.5	8.0	10.0
きょうな	3	0.9	0.9	0.3	0.3
チンゲンサイ	10	14.0	19.0	10.0	3.0
カリフラワー	2	0.8	0.8	0.2	0.2
ブロッコリー	2	9.0	8.2	9.4	5.6
その他のあぶらな科野菜	5	10.5	15.5	1.0	1.5
アーティチョーク	5	0.5	0.5	0.5	0.5
チコリ	5	0.5	0.5	0.5	0.5
エンダイブ	5	0.5	0.5	0.5	0.5
しゅんぎく	20	50.0	74.0	38.0	12.0
レタス(サラダ菜及びちしゃを含む)	5	30.5	21.0	32.0	12.5
その他のきく科野菜	5	2.0	3.5	2.5	0.5
ねぎ(リーキを含む)	5	56.5	67.5	41.0	22.5
その他のゆり科野菜	0.7	0.6	1.3	0.1	0.1
にんじん	0.7	17.2	15.6	17.6	11.4
パセリ	5	0.5	0.5	0.5	0.5
セロリ	5	2.0	2.0	1.5	0.5
みつば	5	1.0	1.0	0.5	0.5
その他のせり科野菜	5	0.5	1.5	0.5	0.5
トマト	2	48.6	37.8	49.0	33.8
ピーマン	3	13.2	11.1	5.7	6.0
なす	2	8.0	11.4	6.6	1.8
その他のなす科野菜	5	1.0	1.5	0.5	0.5
きゅうり(ガーキンを含む)	2	32.6	33.2	20.2	16.4
かぼちや(スカッシュを含む)	0.5	4.7	5.8	3.5	2.9
しろり	2	0.6	1.6	0.2	0.2
すいか	0.5	0.1	0.1	0.1	0.1
メロン類果実	1	0.4	0.3	0.1	0.3
まくわうり	0.5	0.1	0.1	0.1	0.1
その他のうり科野菜	2	1.0	1.4	4.6	0.2
ほうれんそう	15	280.5	325.5	261.0	151.5
オクラ	2	0.6	0.6	0.4	0.4
未成熟えんどう	5	3.0	3.0	3.5	1.0
えだまめ	2	0.2	0.2	0.2	0.2
その他の野菜	5	63.0	61.0	48.0	48.5
みかん	2	83.2	85.2	91.6	70.8
なつみかんの果実全体	1	0.1	0.1	0.1	0.1
レモン	3	0.9	0.9	0.9	0.6
オレンジ(ネーブルオレンジを含む)	3	1.2	0.6	2.4	1.8
グレープフルーツ	3	3.6	2.4	6.3	1.2
ライム	3	0.3	0.3	0.3	0.3
その他のかんきつ類果実	3	1.2	1.8	0.3	0.3
りんご	0.5	17.7	17.8	15.0	18.1

日本なし	1	5.1	5.1	5.3	4.4
西洋なし	1	0.1	0.1	0.1	0.1
もも	3	1.5	0.3	12.0	2.1
ネクタリン	2	0.2	0.2	0.2	0.2
アンズ(アブリコットを含む)	5	0.5	0.5	0.5	0.5
スモモ(プルーンを含む)	0.5	0.1	0.1	0.7	0.1
うめ	5	5.5	8.0	7.0	1.5
おうとう(チェリーを含む)	10	1.0	1.0	1.0	1.0
いちご	2	0.6	0.2	0.2	0.8
ぶどう	10	58.0	38.0	16.0	44.0
かき	2	62.8	99.2	43.0	16.0
マンゴー	1	0.1	0.1	0.1	0.1
その他の果実	0.7	2.7	1.2	1.0	4.1
綿実	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0
茶	25	75.0	107.5	87.5	35.0
みかんの果皮	10	1.0	1.0	1.0	1.0
その他のスパイス(みかんの果皮を除く)	5	0.5	0.5	0.5	0.5
その他のハーブ	5	0.5	0.5	0.5	0.5
陸棲哺乳類の肉類	0.05	2.9	2.9	3.0	1.6
陸棲哺乳類の乳類	0.05	7.1	7.1	9.2	9.9
計		1514.8	1662.4	1262.9	814.1
ADI比(%)		12.9	13.9	10.3	23.4

TMDI: 理論最大一日摂取量(Theoretical Maximum Daily Intake)

高齢者については畜水産物の摂取量データがないため、国民平均の摂取量を参考とした。

(参考)

これまでの経緯

平成14年	4月24日	農薬登録申請
平成16年	4月28日	厚生労働大臣から食品安全委員会長あてに残留基準設定に係る食品健康影響評価について要請
平成16年	5月13日	食品安全委員会（要請事項説明）
平成16年	5月19日	第11回食品安全委員会農薬専門調査会
平成17年	1月12日	第23回食品安全委員会農薬専門調査会
平成17年	5月12日	食品安全委員会における食品健康影響評価（案）の公表
平成17年	8月31日	薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会へ諮問
平成17年	9月27日	薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会農薬・動物用医薬品部会
平成17年	11月21日	薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会農薬・動物用医薬品部会
平成17年	11月29日	残留農薬基準告示
平成18年	2月9日	薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会
平成18年	7月28日	残留農薬基準告示
平成18年	8月21日	農薬登録申請（適用拡大）
平成18年	9月4日	厚生労働大臣から食品安全委員会長あてに残留基準設定に係る食品健康影響評価について要請
平成18年	9月7日	食品安全委員会（要請事項説明）
平成18年	12月6日	第7回食品安全委員会農薬専門調査会総合評価第一部会
平成19年	1月15日	第9回食品安全委員会農薬専門調査会幹事会
平成19年	3月27日	食品安全委員会における食品健康影響評価（案）の公表
平成19年	4月11日	薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会へ諮問
平成19年	4月24日	薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会農薬・動物用医薬品部会

●薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会農薬・動物用医薬品部会

[委員]

青木 宙	東京海洋大学大学院海洋科学技術研究科教授
井上 松久	北里大学副学長
○大野 泰雄	国立医薬品食品衛生研究所副所長
尾崎 博	東京大学大学院農学生命科学研究科教授
加藤 保博	財団法人残留農薬研究所理事
斎藤 貢一	星薬科大学薬品分析化学教室准教授
佐々木 久美子	国立医薬品食品衛生研究所客員研究員
志賀 正和	元独立行政法人農業技術研究機構中央農業総合研究センター虫害防除部長
豊田 正武	実践女子大学生活科学部生活基礎化学研究室教授
米谷 民雄	国立医薬品食品衛生研究所食品部長

山内 明子	日本生活協同組合連合会組織推進本部 本部長
山添 康	東北大学大学院薬学研究科医療薬学講座薬物動態学分野教授
吉池 信男	独立行政法人国立健康・栄養研究所研究企画評価主幹
鰐淵 英機	大阪市立大学大学院医学研究科都市環境病理学教授

(○：部会長)